

PMI日本支部 アニュアルレポート 2018



WHAT IS PMI?

PMIとは

米国防総省が国防、航空宇宙など大規模プロジェクトを管理するためにマネジメント手法を体系化したのが始まりとされるプロジェクトマネジメント。その後、製造・建設・エンジニアリング・化学産業等への展開を経て、プロジェクトマネジメントを職業とする職業人団体として1969年に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのとある民家のダイニング・ルームから始まったのがPMI (Project Management Institute) で、2019年には創立50周年を迎えます。

PMIがまとめたプロジェクトマネジメントの知識体系「PMBOK® (Project Management Body of Knowledge) ガイド」は、1984年のプロトタイプ版を基とし初版出版は1987年。その後もボランティアの献身的な作業により4年ごとに改訂が繰り返され、現在の最新版は2017年の9月に発行された第6版となっています。世界標準となった「プロジェクトマネジメント」は、世界中のさまざまな分野で実践されています。

C O N T

2	PMIとは	17	新入会オリエンテーション
3	PMI日本支部とは	18	中期3か年計画
4	会長メッセージ	20	PMI標準
5	PMI日本支部の組織	22	プロジェクトマネジメントの動向
6	創立20周年記念事業	23	海外コンファレンス
12	2018年のトピックス	25	会員向けサービス
12	日本フォーラム2018	25	個人会員制度
14	Japan Festa 2018	27	法人スポンサー・プログラム
16	部会リーダー交流会	28	アカデミック・プログラム
16	リーダーシップミーティング2018	30	行政プログラム

PMI JAPAN CHAPTER

PMI日本支部とは

1998年、PMIの日本国内唯一の支部として「PMI東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人PMI日本支部」と名称を変え、国内におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動し、2018年に20周年を迎えました。その「協働」は、会員ボランティアや法人スポンサーに支えられつつ、各種イベントや研究会の開催、PMI出版書籍の日本語訳・販売等を通じて、会員の方々ご自身のPMスキルの研鑽につながっています。また、プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント、そして近年注目を浴びているビジネス・アナリシスなどの手法の啓蒙へと活動の質的拡大も続けています。

ENTS

31 部会活動

31 首都圏中心の支部会員による活動

36 関西ブランチ所属支部会員による活動

37 中部ブランチ所属支部会員による活動

38 法人スポンサー社員による活動

39 各種セミナー

39 外部講師招請によるもの

41 理事・部会メンバーが講師を務めるもの

45 情報発信

45 ホームページ

46 ニュースレター

46 メールマガジン

46 Facebook

47 販売図書

48 決算報告

49 理事・監事名簿

50 スポンサー一覧

会長メッセージ

日頃、PMI日本支部(以下、日本支部)の活動へのご参加・ご支援をいただき誠にありがとうございます。

日本経済はゆっくりながら着実な回復の動きを示しています。日本を取り囲む政治・経済の環境は、厳しさを増しております。また、異常気象や地震も相変わらずのこの頃です。

2018年度は日本支部創立20周年にあたり、記念誌、記念イベント(セミナー、ゴルフコンペ、バーベキュー大会、アクティブメンバーパーティ)、記念出版「タレント・トライアングル」、アクティブメンバーによる海外動向調査、記念ロゴ&記念グッズ、日本フォーラム・Japan Festaの統一テーマ設定、などさまざまな記念事業を実施いたしました。記念事業プログラムのメンバーや事務局員、記念誌・記念出版に寄稿いただいた方々、各イベントにご参加いただいた方々のご協力で、盛況かつ大変有意義に完了することができました。ご支援いただいた方々に深く感謝いたします。

さて、2018年度当初は「支部会員数4,000人の大台を目指す」としておりましたが、おかげさまで年末には4,600人台と予想外の増加となりました。増加の要因は詳しく分析し、2019年度の日本支部の活動に反映させていきたいと思いますが、これはひとえに日本支部会員の皆さまの活発で献身的な活動の賜物と思っております。

現在、PMI本部は戦略の見直しの只中にあり、さまざまな文書が公開されております。その背景にあるのは、急速に進展するDigital Disruptionと表現されるイノベーションの中で、PMIの新たな立ち位置の模索であると考えます。日本支部の置かれている状況も、環境の違いこそあれ、同様に加速

度的に変化しています。未知の変化に直面し、その状況にいかに対応し先取りをするかが問われているものと思います。

統一テーマを設定した7月の日本フォーラムや10月のJapan Festaもおかげさまで成功を収めることができました。また、恒例となった日本支部のリーダーシップミーティング2018では、日本支部の状況・課題を部会リーダーの皆さまに共有いただくことができました。

PMI東アジアの中で、中国、香港、台湾、モンゴルの各支部や、PMI Global Operation Center との交流や協業も、引き続き実施させていただきました。さらに、国際関係委員会では、インドネシア支部やインド・ムンバイ支部のイベントとの交流を実現しました。会員や法人スポンサーの皆さまには、これらの友好関係を、日本支部が提供できるグローバルなネットワークとして、是非ご活用いただきたいと考えております。

2018年は、新しい3ヶ年中期計画の2年目にあたり、計画の定期的点検を実施しました。この中期計画を着実に実現し、皆さまに価値のあるサービスをご提供させていただくよう、理事、委員会、事務局が一体となって邁進していきます。

関西、中部各ブランチの活動を通して皆さまへのより身近な地域向けサービスの拡大や、新標準の展開、公共機関や教育機関への貢献、社会的プロジェクトへの取り組みを実施しております。部会を通じて活動成果を周知・展開するなど、会員の皆さまの活動がより充実するよう、引き続き努力していきたいと思っております。また、ホームページやイベントの会場など、できる限り多くの機会に日本支部の活動を皆さまに知っていただけるよう、情報発信をしまいにいます。また、日本フォーラム、Japan Festaでは、インターネットを介して、講演をLiveで聴講いただきました。空間的な制約に縛られない、できる限り地域均等なサービスをご提供することを目指してまいります。

法人スポンサーの皆さまには、各種セミナーなどの特典や、自主的な勉強会(Study Group)活動などを支援させていただくとともに、日本支部の持つグローバルなネットワークも是非ご活用いただければと思っております。

研究会活動は、会員皆さまにとって研鑽の場、情報交換の場、経験豊富なPM同士の交流の場、あるいは日頃の研究成果の発表や疑問の解消の場として、役立つものと確信しております。

毎回申し上げていることではありますが、当レポートをご覧いただければ、日本支部の広範にわたる活動が、会員皆さまの自主的な活動に支えられ、展開されていることに実感していただけるものと思います。日本支部は、会員皆さま個人としての参加、貢献によって支えられている団体です。引き続き、会員の皆さまには、積極的に活動にご参加いただきますよう、またまだ会員登録いただいていない皆さまには、これを機会にぜひ入会をご検討いただきたく、よろしく願いいたします。

PMI日本支部 会長 奥澤 薫



5



PMI日本支部が2018年1月に創立20周年を迎えるにあたり、「創立20周年記念プログラム」を企画・検討するワーキンググループが2017年4月に発足しました。過去20年のPMI日本支部の歩みを盛り込むとともに、今後10年間のPMI日本支部の進む道にひとつの布石となればという思いもあり、チャレンジングな施策が多く企画されました。

多くのボランティアの方々、事務局、理事の尽力により、創立20周年プログラム施策をすべて予定通り実施することができました。この20年の諸環境の移り変わり、ビジネスの変化やそれによるプロジェクトマネジメント自体の変化を実感しつつ、私たちは何をすべきか、どう進化すればよいかという問いかけも出来たと考えます。

日本支部が今後も会員の皆さまはもちろん、多くのプロジェクト・マネジャーの方々に価値を創出できる組織として進んでいくために、この創立20周年記念プログラムはひとつの区切りとなったと考えています。

創立20周年記念プログラム 全体スケジュール

	2017 9月	10月	11月	12月	2018 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
主要イベント					20周年 記念日 1/16				記念セミ ナー▲ 5/20		フォーラム ▲ 7/14-15			Festa ▲ 10/13-14		
PJ1 記念誌				予備検討	記念誌企画	執筆依頼			組版・校正	▲電子版完了						
					アンケート・座談会				印刷		▲フォーラムで配布			配布		
					素材調査			編集								
PJ2 フォーラム & Festa (統一テーマ)					▲2/28 招待講演者決定				▲5/31 交流会企画確定		▲フォーラム開催			▲8/31 Festa講演者決定		
				関係者ヒアリング	▲1/31 コマ割決定			▲3/31 Festa会場&日程決定						Festa開催		
				テーマ決定▲12/20 統一テーマ												
PJ3 記念イベント				ボランティアルIST▲12/11 ボランティヤ募集	記念イベント準備				記念セミナー 開催5/20		ゴルフコンペ準備			▲9/22 ゴルフ		
				会場日程決定▲11/27 会場・日程 アナウンス リリース▲1/16	プログラム確定						バーベキュー準備				▲11/10 バーベキュー	
																▲12/1 パーティ
PJ4 記念出版				キックオフ▲12/8 体制構築 テーマ設定・募集要項整理 募集発表 出版企画				初稿(データ)▲4/30 執筆	最終入稿▲7/9 入稿・校正		印刷版提供開始▲10/上			印刷入稿▲9/11		▲Festaで先行提供
								確定原稿(データ)▲5/31			PR企画書▲7/31					
PJ5 海外動向 調査				施策概要合意	募集要項整理				参加者選出依頼6/25▲							
				理事会で打診▲ 部会リーダー交流会で展開▲12/16	発表▲ 募集要項送付▲ 選定基準送付▲				部会参加者選定		調査準備			動向調査		
					趣旨説明3/26▲			選出準備	フォーラム▲		Global Conference▲			▲PMO Symposium		
									優秀発表部会決定		▲参加者確定					
PJ7 記念ロゴ & 記念グッズ				ロゴデザイン・製作					グッズ製作		▲フォーラム					
					ロゴ発表・利用開始(1/16)											
					記念グッズ企画				グッズ製作							
関連施策	LM2017 9/2-3				部会リー ダー交流 会12/15			部会リー ダー交流 会3/26		部会リー ダー交流 会6/25			LM2018 9/1-2	部会リー ダー交流 会10/22		部会リー ダー交流 会12/8



創立20周年を記念して、支部の歴史を編年体でまとめることを目的に「創立20周年記念誌編纂プロジェクト」を2017年12月に開始しました。見開き2頁で歴史的事実と関係者のコラムでまとめる基本レイアウトを決定し、どのような事実を掲載するか、まずは資料の調査から始めました。基礎となったのは理事会議事録やニュースレターでした。特に資料が散逸している創設期については、初代事務局長清水計雄氏に当時の資料を提供いただき、関係者への取材で何とかまとめることができました。残念なのは創設期の写真がほとんどなくニュースレターからの転載となったことです。

創設にかかわられた皆さまも高齢になりつつある現在、20年の節目は資料や記憶をまとめるには良い機会になったと思います。おそらく今回を逃すと将来にはまとめることができなかつたのではないのでしょうか。今回、日本支部の発展に多くの方のご尽力があったことを記録として残せたことは、大変意義深いものとなりました。ご寄稿いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。

さらに追加企画で次の10年を見据えたアクティブ会員アンケートや座談会でこれからのPM像を訴求できたこと、創立20周年記念セミナーについてもボランティア記者の方に記事を執筆いただき掲載できたことなど、内容も充実させることができました。

原稿収集で遅れが生じていましたが、予定通り校了し、当初目標より早く印刷版2,000部を作成し日本フォーラム2018の参加者全員に配布、またPDF版も日本フォーラム前日にダウンロード可能とすることができました。日本フォーラム2018参加者に対して行った記念誌に関するアンケートでは98%の方から好評価を得ることができ、所期の目的を達成できたと考えています。

20周年記念誌のアンケート結果

ご評価
(37件)

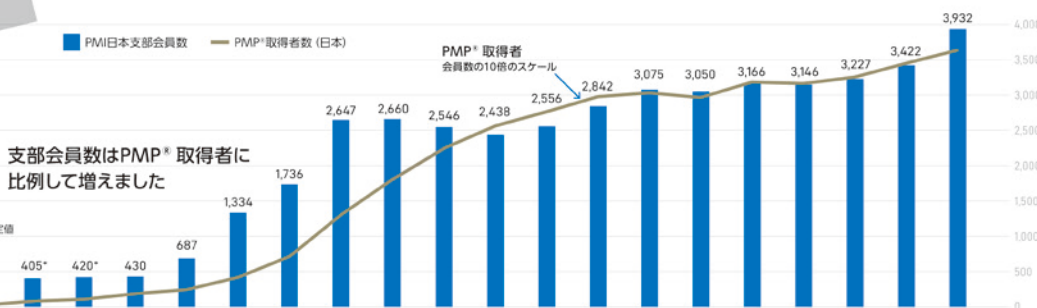
- 20年の歴史が分かりやすくまとまっていて、良かった。
- 20年という歩みと重みが良くわかった。
- 第1章は読み応えあった。歴史の重さを感じました。
- 日本におけるProject Managementの広がり理解できる。
- 構成がすばらしかったです。
- 自分のPM史と重ねて時代を振り返ることができた。そして、将来の展望に刺激され、Outcomeの一端に関わる自分でありたいと思う。
- 過去の足跡が辿れたことで、日本支部の活動がより理解しやすいこと、これからの10年に触れて、決意が表明されていること。
- PMIJの沿革や、理事・事務局の皆様の苦勞を知ることができ、一層の貢献をしたいと思った。
- PMI日本支部の歴史については知りませんでした。変遷を知ることができたのは有益でした。
- 私の社会人生活とほぼ同時代を過ごしており(同期!)、不思議な縁を感じました。
- 2004年にPMPを取得して14年目です。PMIJの拡大を振り返ることができ、非常に興味深く感じました。

PMI日本支部の 20年

PMI日本支部会員数 PMP®取得者数(日本)

支部会員数はPMP®取得者に
比例して増えました

*:推定値



	1969	...	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
PMI日本支部				先導建設技術センター (AETEC)に運営移管 PMI東京支部設立	建設省からの支援が決定 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉	PMI本部と交渉 PMI本部と交渉
プロジェクトマネジメント関係	PM本部創立			PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立	PM本部創立
世の中の動き				消費税率5%へ																					

出典:「PMI日本支部 創立20周年記念誌」p10

記念イベント

創立20周年記念イベントでは、「会員ではない方にも創立20周年を知ってもらうこと」と「各ステークホルダーとの交流の場を提供すること」を目的に、4つのイベントを企画して開催しました。

(1) 記念セミナー

〔2018年5月20日(日) 学術総合センター 一橋講堂〕

当記念セミナーは、日本支部会員・本部会員に限定せず、会員でない方々、日本国内の36,000余名のPMPホルダーの方々にも無料でご参加いただけるように企画しました。

オンライン受付を開始した当日のうちに定員に達するなど、多くの皆さまにご興味、ご関心を持っていただきました。会員でない方々が過半数の51%を占め、目論見どおり多くの皆さまにPMI活動を知っていただける機会となりました。なお、参加者の98%はPMPホルダーでした。



(2) 記念ゴルフコンペ

〔2018年9月22日(土) 小見川東急ゴルフクラブ〕

支部主催の初めてのゴルフコンペを、法人スポンサー社員、支部会員など15名(4組)で開催しました。普段はなかなか話をすることがないメンバーの組み合わせで、

ゴルフを通じた忌憚のないコミュニケーションにより支部活動へのアドバイスなども頂戴することが出来ました。また、部会活動を経験されていない支部会員にもご参加いただくことができ有意義な時間となりました。



(3) バーベキュー大会

〔2018年11月10日(土) 江東区立若洲公園〕

支部会員のご家族を含めて総勢43名(大人33名、子供6名、幼児4名)から申し込みをいただき、その全員に参加いただきました。

支部会員のボランティア活動を支えるご家族を含めたイベントは初めてのことでしたが、参加者が皆で一緒に準備を行う中、自然にコミュニケーションが生まれとても楽しい時間を過ごしました。日本支部の活動が多くの会員やそのご家族の支援で成り立っていることを実感する場となりました。



創立20周年記念イベント ボランティア 若山 恭一

2018年はPMI日本支部20周年イベントにボランティアスタッフとして参加し、また年末のアクティブメンバー・パーティの進行を任せていただくなど、業務外でのプロジェクトを経験する機会に恵まれた良い年となりました。

きっかけは、なにか得られるものがあるかもしれないと軽い気持ちでボランティアスタッフに応募したのを今も覚えています。しかしながら、この一年を振り返ると、PMの先輩方から仕事の繋がりでは得られないような貴重なお話を聞く機会等もあり、当初期待していたよりも多くの知識や経験が得られました。

良い機会をくださったことと事務局の方々の細やかなサポートに感謝すると共に、今後もPMIの一員として進んで活動したいと思います。

COLUMN

(4) アクティブ・メンバー・パーティー

〔2018年12月1日(土) 東京〕

創立20周年記念イベントの最後は、日々、日本支部を支えていただいている部会アクティブ・メンバーを対象としたパーティーでした。部会の境界を越えてコミュニケーションできる場の提供と感謝の気持ちを込めて開催したもので、63名の方々にご参加いただき、大盛り上がりとなりました。なお、参加者の方々には創立20周年記念出版「タレント・トライアングル」を謹呈しました。



記念出版「タレント・トライアングル」

本書「タレント・トライアングル」の編纂は日本支部創立20周年事業のひとつとして「PMのこれから」に関する情報を発信・提言していこうという思いから始まりました。

本書では、PMI本部によるタレント・トライアングル発表時の資料である「THE PMI TALENT TRIANGLE™ — Your Angle on Success」に例示された3領域のキーワードを基に、「Disruptive Innovation」時代のPMに求められるスキルセットについて、PM実践者である約30名の日本支部会員の専門領域における知見をベースに、PMI発行の標準や調査レポートなどの関連資料を参考にしつつ、これからのPMに関する「実践のヒント」を詰め込みました。以下、その内容を改めて簡単にご紹介します。



- 1章では「デジタル・ディスラプション」をキーワードにプロジェクトマネジメントへの期待の変化や今後のあり方、そして「PMI タレント・トライアングル™」が示すスキルセットが示す今後のプロジェクト・マネジャー像を解説
- 2章では「戦略的およびビジネスのマネジメント」をテーマにBRM (Benefits Realization Management) やEPMO (Enterprise PMO) といった最新トレンドを考えるうえで必要なビジネスナレッジを解説
- 3章では「テクニカル・プロジェクトマネジメント」をテーマに、「PMBOK® ガイド」をはじめとする

PMIの各種標準、調査レポートを読み解き、アジャイルやPPPM (Project, Program, and Portfolio Management) にまで拡張する際の実践的ナレッジを解説

- 4章は「リーダーシップ」をテーマに、プロジェクトマネジメント・リーダーシップに対する要求の変化のトレンドや「チェンジマネジメント」、「サーバント・リーダーシップ」に関する実践ナレッジを解説
- 最後の5章ではまとめとしてプロジェクトマネジメント力向上のためのタレント・トライアングルの活用について改めて説明



「羅針盤」としてのタレント・トライアングル

出典:「タレント・トライアングル」図5-1

本書は、担当された執筆者の視点をまとめたオムニバス形式でのオピニオン集となっています。したがって単体の読み物としてどの部分からでも楽しんでお読みいただくことが可能です。現場で日々プロジェクトマネジメントと向きあっておられる方々が本書をお読みいただくことで、これからのプロジェクトマネジメントのあり方を考える際のヒントとなれば幸いです。

アクティブメンバー海外動向調査

プロジェクトマネジメントに関する海外最新動向を把握し、フィードバックを通じて現場実践者へ知見共有を行うことを目的に、部会アクティブメンバーによる海外動向調査の場を創設しました。参加された4人は貴重な機会を存分に活用、業務経験や考察を加えた知見や気づきを整理し、広く動向発信を行いました。

参画対象としたPMI本部主催の会議では、全世界を対象としたPMI調査結果の紹介や有識者の提言も行われ、ここで得た洞察を日本のPMコミュニティへ発信・還元できたことは、日本支部としても有意義な活動となりました。

■PMI® Global Conference 2018

ポートフォリオ／プログラム研究会 遠山文規

アジャイル プロジェクト マネジメント研究会 関口匡稔

米国ロサンゼルスで2018年10月6日(土)～10月8日(月)に、世界60ヶ国からPM実務者が集う年次カンファレンスに参加しました。テーマは「Champions of Change」。PM/PMOこそがチェンジマネジメントのリーダーであるという思いを感じさせます。

セッションは、“Analyzing and Process Improvement”、“Enhancing PM Skill”、“Influencing and Business Strategy”といった「タイプ」で分けられています。AgileやProgram/Portfolioといった手法はもちろん、デジタル時代への対応や医療業界での応用といったより実務的なものまでさまざまなセッションがありました。

全員参加のオープニング Keynote はNFL (National Football League) のプレイヤーでもあり、マジシャンでもあるというJon Dorenbos氏。テーブルマジックを折込みながら、幼少時に悲惨な体験をしつつも、マジック、そしてフットボールに出会い、それを克服していったことを通じて、「変化するためには、まず自分自身が変わらなければならない」というメッセージでした。

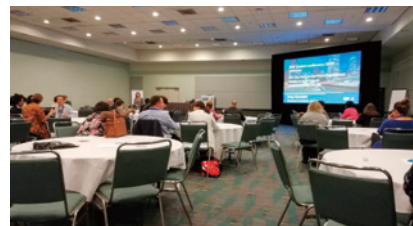
2日目のオープニングは、世代間問題の専門家であるCam Marston氏による、職場における5つの世代についてでした。世代ごとにコミュニケーションの嗜好が異なるという研究成果から、企業においてそういった世代の多様性を前提とし、それらを意識してプロジェクトを推進することが継続的な効果を生むというものでした。世代の分け方は北米基準ですが日本にも馴染みのある



もので、実際のプロジェクトでも感じる「ジェネレーションギャップ」への処方として有意義なものでした。

1日目の夜にはPMI Professional Awardがあり、Project of Yearsの表彰もありました。受賞者の業績を見るとPMO/PgMOとして変革をリードした点を評価されており、PMO/PgMOが変革の旗手となるべきというPMIの考えを強く感じました。

他の時間帯は1時間から1時間半のセッションが3日間で10以上あり、同一時間帯に10



を超える並行セッションが設定されています。関口はAgileを、遠山はProgram/Portfolioのセッションを中心に参加しました。セッションはインタラクティブなものが多いのが特徴で、座席も写真のように参加者同士でディスカッションができるような配置になっています。スピーカーが参加者へリアルタイムにアンケートを行い、セッション参加者がどのような見解や経験を持って参加しているかを取り入れながら進められています。

大ホールでは書籍販売や企業の展示ブースがあり、Playgroundとよばれるステージでの小セッションやPMI Podcastの公開収録、支部メンバーによるAsk the Expertなどさまざまなイベントが終日行われていました。このような参加者同士の交流を促すイベントは、日本では場所の制約からなかなか難しいですが、ぜひ取り入れてほしいと感じます。

イベントを通じて他の参加者と交流を図る機会がありましたが、日本と違いマーケティングや調達などの職種におけるPMが参加しており、参加者層が厚いことを体感しました。キャリアについての意識も非常に高く、次の自身のステップアップのためにイベントを活用するという意気込みを感じます。非常に刺激を受けた3日間でした。

来年はPMI創立50周年記念で、PMI本部のあるフィラデルフィアでの開催です。ここにしかない学びの機会、得るものも多くあります。日本からも多くの方に参加していただけると良いと思います。

■PMO Symposium® 2018

PM教育研究会 芳賀健治

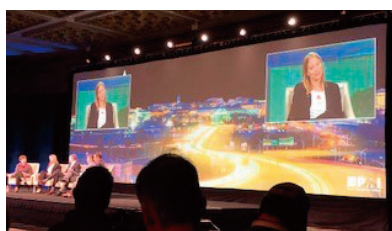
リスク・マネジメント研究会 芳賀和郎

2018年11月11日から11月14日までの4日間にわたりアメリカ、ワシントンDCで開催されたPMO

Symposium2018に初めて参加しました。

当シンポジウムのテーマの一つとして、破壊的なテクノロジーの進歩の時代をどう生き残るかというチャレンジが取り上げられていたのが印象的でした。

PMO of the Yearの表彰では、教育機関、通信事業、および保険事業の3件のファイナリストの成果発表がありました。最終的にオーストラリアの通信事業社であるTelstraが選ばれました。ファイナリストの教育機関からは、PMOを立ち上げてITプロジェクトを手掛け、プロジェクトによる成果物によって付加価値を創造し組織内の信用を高めることに成功し、その結果IT以外の教育機関のすべてのプロジェクトも任されるようになったという事例を聴くことができました。



3日目には会場から外に出て、PMOの現場を見ながらディスカッションが出来るセッション(Offsite

Learning)が用意されていました。そこでは、自動車の事故修復歴や走行距離情報等を収集、データベース化して、それを販売することで利益を上げているCARFAX社のPMOの最近の改善事例を当事者の方々から直に話を聴けました。その他、このOffsite Learningでは、AMTRAK、NASAの宇宙飛行センター、ミュージアムなどが選択可能で、分科会形式で1時間から2時間のブレイクアウトセッションが合計58あり、さまざまなトピックの中から興味のある発表を聴講したり、ディスカッションに参加したりしました。

朝食、昼食、夕食およびセッション間の休憩時間はネットワーキング・タイムとして設定されており、世界各国から集まった方々と有意義な情報共有・情報交換の場となりました。

とても有意義なイベントでした。機会があれば、是非積極的に参加されることをお勧めします。



統一テーマ

2018年度の日本フォーラム、Japan Festaは、行政、企業が追い求めるIoTやデジタル社会へ向けた変革を実現させる組織活動に着目しました。プログラムマネジメント、アジャイル、リスク管理といったPPPMによるBRMをキーワードとし、統一テーマを『新しい潮流への

チャレンジ』に、サブテーマとしてフォーラムでは『境界を越えて』を、Festaは『激動する時代にプロジェクトマネジメントに求められる変化とは?』をそれぞれ定め、国内外のトップリーダーを招請し講演いただきました。

記念ロゴ、グッズ

2018年通年にわたって日本支部創立20周年記念事業を展開するにあたり、支部会員への帰属意識向上、まだ会員になっていただいていない一般の方々の勧誘のほか、記念事業を契機とした日本支部の一層の認知度向上施策の一環として記念ロゴ、グッズを製作し、イベント開催の際に配布しました。

記念ロゴは、日本支部の「富士山と桜」のロゴを継承しつつ、さらなる飛躍をイメージしたものとした結果、「将来への意気込みを感じる」と好評価をいただきました。

当該記念ロゴ入りの名刺を理事・事務局員・部会アクティブメンバーが所有するとともに、ロゴ入りグッズとして、フリクション・ボールペン、A4判ノート・パッド、パタパタ・メモ、金箔仕様クリア・フォルダー、日本酒升などを製作しました。これらのグッズは、記念セミナー、

日本フォーラム2018、Japan Festa 2018、各種ワークショップ、新会員オリエンテーションなど国内60以上の主催イベントの参加者をはじめ、PMI北米コンGRES、R9ミーティングなど海外イベント参加時にも要人に配布することで、国内外で日本支部活動を十二分にアピールできました。また、2018年における日本支部会員の大幅増にも貢献したものと考えています。



2018年のトピックス

日本フォーラム 2018

日 程 : 7月14日(土)、15日(日)
場 所 : 学術総合センター(一橋記念講堂)
テーマ : 「新しい潮流へのチャレンジー境界を越えてー」
セッション数 : 62
基調講演 : President and CEO, PMI Mark A. Langley氏
Region9 Mentor 神庭弘年氏

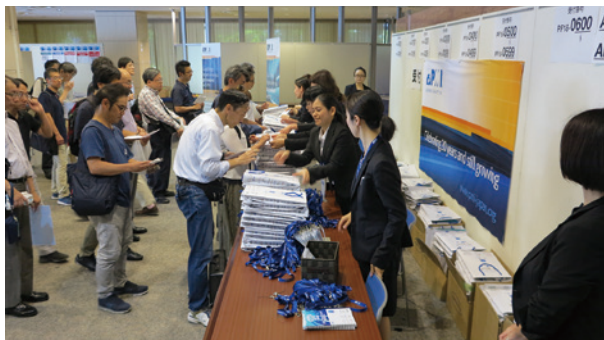


日本フォーラムは日本支部における年間最大の啓発イベントで、日本支部会員や一般の方々をはじめ、法人スポンサー企業社員、企業エグゼクティブ・経営層の方々に対し、プロジェクトマネジメントの事例や最新動向を紹介するとともに、日本支部の活動を広く知っていただくものです。

今年は「新しい潮流へのチャレンジー境界を越えてー」をテーマに、創立20周年記念プログラムの一環として、7月14日(土)、15日(日)の両日、東京都千代田区学術総合センターにおいて開催しました。



同時中継スタッフ



冒頭で日本支部会長 奥澤 薫から創立20周年にあたり「PMI日本支部の歴史と現在」を紹介した後、歴代支部会長へ記念品が贈呈されました。

続いて、PMIプレジデント兼CEO Mark A. Langleyから「プロジェクトマネジメントの未来」、Region9 Mentor 神庭弘年から「破壊的イノベーションとPMのロール」と題した講演があり、その後、幅広い分野における国内外10人の識者から2日間にわたり示唆に富む

講演をいただきました。

大講堂での基調・招待講演については、従来通り全て日英同時通訳付きの講演としたほか、昨年のJapan Festa2017で好評を博した同時中継システムをフォーラムとして初めて採用し、これら12セッションを全国向けに同時中継し、180余名の方々にリアルタイムで受講いただきました。

基調・招待講演の登壇者とテーマ

7月14日(土)

- 【1】プロジェクトマネジメントの未来
Mark A. Langley President and CEO PMI
- 【2】破壊的イノベーションとPMロールの変化
神庭弘年 PMI Region 9 Mentor, 神庭PM研究所・所長
- 【3】ESG時代におけるSDGs活用による新たな競争戦略
笹谷秀光 様 伊藤園 常務執行役員 CSR推進部長
- 【4】人生100年時代に求められる学び力とは？
清水久三子 様 株式会社 AND CREATE 代表取締役
- 【5】持続可能な都市を目指す豊田市の取り組み
太田稔彦 様 豊田市長
- 【6】「個別化」時代に向けた楽天技術研究所の挑戦
森正弥 様 楽天株式会社 執行役員 楽天技術研究所 代表

7月15日(日)

- 【7】会う人すべてがあなたのファンになる『一流の魅せ方』
鈴鹿久美子 様 株式会社 InStyle 代表取締役社長
- 【8】VUCA 時代のマネジメント方法論
白坂成功 様 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
- 【9】組織的アジリティについての展望
Stephen Townsend PMI's Director for Network Programs
- 【10】ジョブ理論によるイノベーションプロセス
白井和康 様 ビジネスイノベーションハブ株式会社 代表取締役
- 【11】ステークホルダーマネジメントを成功に導く、プロジェクトマネージャーに求められるパブリック・リレーションズとは？
井之上喬 様 株式会社井之上パブリックリレーションズ
代表取締役会長兼 CEO
- 【12】「なぜプロジェクトは失敗するのか?」、調査結果に見る1700プロジェクトの真実
田中淳 様 株式会社日経BP 日経 xTECH / 日経コンピュータ シニアエディター



グローバルトラックでは、4つのセッションを設定し、日本支部と同じく今年20周年を迎えたブラジルのサンパウロ支部のほか、オランダ、オーストラリアなどから総勢5名に登壇いただきました。 各々の立場からのプロジェクトマネジメントに関する興味深いお話で、海外動向に関心が高い聴講者で賑わいました。



グローバルトラック登壇者

また、アカデミックトラックでは、両日にわたって計6つのセッションを設定しPM教育の裾野拡大や実践教育の例、グローバル人材の育成、産学連携など各教育機関が抱える課題について意見交換、討論が活発に行われました。

一方、各テーマ別トラックは、日本支部の各部会、法人スポンサーのスタディ・グループ(SG)から日頃の研究成果の発表の場です。 PMIがグローバルに推進している「PMBOK®ガイド」、ポートフォリオ・プログラムマネジメント、リスクマネジメント、組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系、そしてソーシャルPM、アジャイルPMなどに関連した36講演が28部会・SGから行われ、中身の濃い内容となりました。



また、15企業様から多様な展示、ランチセッション、講演、小冊子への広告掲載などに協賛いただきました。

今年も猛暑の盛りに開催しましたが、受け付け開始直後から多くの皆さまからお申し込みがあり、ボランティア・スタッフの方々をはじめ、スポンサー企業の皆さまに多大な支援をいただきながら、1,500人を超える参加者を得て日本フォーラム2018も盛況裡に終了しました。

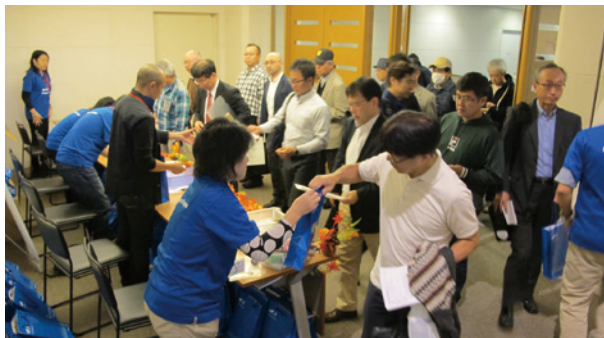


Japan Festa 2018

日 時: 2018年10月13日(土)、14日(日)
場 所: 慶應義塾大学 日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホール
テーマ: 『新しい潮流へのチャレンジ
～ 激動する時代にプロジェクト・マネジャーに
求められる変化とは? ～』



2018年10月13日(土)、14日(日)の2日間にわたり、慶應義塾大学 日吉キャンパス 協生館藤原洋記念ホールにて、PMI Japan Festa2018を開催しました。2017年に始めた全国向けオンライン中継を継続する一方、新たな試みとしてワークショップの同時並行開催のほか、交流会では女性演奏家トリオによる生演奏も加わり、日本支部創立20周年記念に相応しいイベントとなりました。今回も延べ700人を超える方々の参加を得て成功裏に終了しました。



受け付け

「未知の領域においても志高いプロジェクト・マネジャーに」というサブ・テーマに基づきつつ、今年もJapan Festaの大きな特徴を踏まえて12人の講師を選定しました。

すなわち、タレントトライアングルというLeadershipおよび、Strategic & Business Managementに関連する講演に重点を置き、参加されたプロジェクト・マネジャーのパフォーマンス向上に結びつくような内容の講演を提供すべく企画しました。

「苦境を乗り越えるリーダーシップ」、「プロジェクト

の効率化」、「人材育成」といった内容に加え、AIビジネス、航空宇宙といった最先端テクノロジーに関わる分野までを網羅した今回のJapan Festaも、参加者の方々から極めて高い評価をいただきました。

事前にすり合わせた訳ではありませんが、今回の講演では「働き方改革」、「変化対応力」、「サードプレイス」といった共通のキーワードがありました。激動の時代にリーダーには変化にシなやかに対応していく力が求められています。このためには仕事、家庭といった垣根を越えたサードプレイス(ボランティア活動、複業、趣味など)を経験することで、環境変化への対応力を自ら体得していくことが重要であるというメッセージが各講演に散りばめられていました。

10講演の登壇者とテーマ

10月13日(土)

- 【1】「リーダーシップ」～「伝統的な教え、革新的な学び」～
山本 真己 様 NPO横浜大学 代表理事
- 【2】「チアリーダー出身プロジェクトマネジャーの苦悩、頑張りすぎなくても続けられるように」
三上 裕子 様 キヤノンITソリューションズ株式会社 アドバイザリーアプリケーションスペシャリスト
- 【3】「PDCAをやめて、DLPで行こう!」
酒井 穰 様 株式会社steekstok 代表取締役CEO
- 【4】「会議が変わると働き方が変わる」～メンバーの力を最大限に引き出すファシリテーションのツボ～
榊巻 亮 様 ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 ディレクター
- 【5】「激動する時代に生き残るリーダーとは」～オールラウンダーエージェントが秘訣を教えます～
森本 千賀子 様 株式会社morich 代表取締役

10月14日(日)

- 【6】「世界最強のチーム、“次世代宇宙飛行士”に求められる資質とスキル」
山口 孝夫 様 有人宇宙システム株式会社 有人宇宙技術部 主幹
- 【7】「月曜日が楽しい会社にしよう!」～ゆとりを創り、生産性を飛躍的に上げる働き方改革～
岸良 裕司 様 / 飛田 甲次郎 様 ゴールドドラフト・コンサルティング・ジャパン CEO/パートナー
- 【8】「ビジネスの現場でのAI」～Watsonの今とこれから～
溝渕 浩章 様 日本アイ・ビー・エム株式会社 ワatson&クラウドプラットフォーム事業部 SW Service Watson Delivery 部長
- 【9】「働き方改革成功のカギは社員幸福度の向上」
奥山 由美子 様 株式会社カルチャリア 代表取締役社長
- 【10】「東京芝で“国酒”を造る!」～100年の時を超えて復活『東京港醸造』～
齊藤 俊一 様 / 寺澤 善実 様 株式会社若松 代表取締役社長 / 取締役 杜氏

Japan Festaでの初めての試みとして、PMO研究会、ソーシャルPM研究会、関西ブランチ PM実践研究会の3つの部会によるワークショップを並行トラックで実施しました。各部会とも当日に向けてファシリテーターと補助員が入念にリハーサルを行ってきた結果、半日を使ったワークショップではファシリテーターと受講者間で活発なディスカッションが行われ、非常に内容の濃い時間となりました。アンケートによる参加者の満足度も極めて高いものとなりました。

ワークショップ風景



(PMO研究会)



(関西PM実践研究会)



(ソーシャルPM研究会)

Festaにおける重要なプログラムの一つである交流会は、セミナー会場と同じフロアにある協生館ファカルティラウンジで開催しました。女性演奏家トリオが奏でる音楽によるおもてなしも加わり、例年より華やかな雰囲気になりました。ゆったりとしたスペースの中、受講者、講師の方々、日本支部理事、ボランティア・スタッフを合わせて約80名による盛況な交流会となりました。



交流会にて

一年前のFesta2017で初めて導入し、フォーラム2018にも引き継がれた「同時中継システム」はFesta2018でも極めて好評で、すっかり定着しました。

ご都合で会場に参加いただけない方々がPCやタブレットを使ってご自宅や外出先で聴講され、北海道から九州まで(今年はベトナムからも)延べ300名を超える利用がありました。



同時中継スタッフと同時中継の画面例

Japan Festaは日本支部が開催するセミナー・イベントとしては日本フォーラムに次ぎ開催規模が大きいものですが、企画・準備・当日運営は、部会活動のひとつであるセミナー・プログラムのボランティア・スタッフによって全て進められています。昨年度の改善点も踏まえ、テーマ設定、講師選定から始まり、約10ヶ月の周到な準備期間を経て開催しています。



司会



ボランティア整列

2018年のトピックス

部会リーダー交流会

日本支部にはいくつかの研究会活動があります。首都圏に17、関西 brunch 内に5つ、さらに中部 brunch 内に2つあります。また、プログラムと称する活動も2つあり、このような会員ボランティア主導の活動を「部会活動」と呼んでいます。これらはPM同士の交流、研鑽、情報交換の場であり、日頃の疑問の解消や研究成果の発表のため、多くの会員の皆さまにより積極的に取り組まれています。

これを受けて、日本支部では、部会間のコミュニケーションを促進する場として「部会リーダー交流会」を定期開催しています。

2018年度は4回(3月、6月、10月、12月)開催され、各部会活動状況の紹介や、日本支部からの最新情報の

共有および部会リーダー同士のネットワーキングが行われました。特に今年は、日本支部創立20周年を記念した多くの企画・イベントの最新情報を各部会とタイムリーに共有する場としても活用されました。

部会間のコラボレーションのきっかけ作りや各部会のアクティブメンバー増加をはかることなど、部会活動の活性化を支援する活動として継続します。



リーダーシップミーティング2018

2018年9月1日(土)と2日(日)の2日間、東京都調布市にあるNTT中央研修センターを会場に、日本支部の各部会のリーダーやアクティブメンバー、会長・理事・監事・顧問・事務局員、それにPMIアジア・パシフィックからの参加者を加えて、総勢72名が一堂に会し「PMI日本支部リーダーシップミーティング2018」が開催されました。

今年で4回目になるこのミーティングは、戦略委員会のひとつ、PMコミュニティ活性化委員会が中心となってボランティアによる「LM2018運営チーム」を結成して企画、運営されたものです。また、開催に向けては「LM2018プロジェクト憲章」を作成した上でプロジェクト・マネジャーを任命し、目的やPMの権限・責務を明確にするなど、LM2018そのものをプロジェクトとしてマネジメントする、PMIらしい運営を行っています。

ミーティング参加者としては各部会(委員会、研究会、brunch、プログラム)からリーダーやアクティブメンバーが2名ずつ派遣され、今後のPMI本部や日本支部のビジョンと方向性、施策などを共有し、参加者のリーダーシップ育成を目指したワークショップを行うことで、よ

りアクティブな部会活動を促し、PMコミュニティを活性化することを目的としています。

1日目の会議では、PMI アジア・パシフィックからのゲスト、SoHyun Kang氏より、PMI本部の今後の方向性として「PMI Transformation Journey」と題するわかりやすい英語のプレゼンテーション、それに続き端山毅副会長より「デジタル・トランスフォーメーションを加速する先進技術の導入・活用に向けて」と題して、JISA(情報サービス産業協会)先進技術実践委員会での内容をベースに、デジタル・トランスフォーメーションにおいてどこに注目すべきかなどが説明されました。

その後、片江副会長よりPMI EMEA LIM(欧州・中東・アフリカ地域でのLeadership Institute Meeting)のフィードバックが行われ、その流れでワークショップに入りました。初日のワークショッ



ワークショップの様相



リーダーシップミーティング2018 運営スタッフ 杉原 卓朗

2017年に引き続き、2018年リーダーシップミーティングに運営スタッフとして参加しました。ボランティアやゲストを含め、参加者全員にとって有意義なミーティングとなるよう、ワークショップの準備や会場設営・運営に加え、海外ゲスト向け同時通訳を務めさせていただきました。

当日のワークショップはキャリアに関するテーマで、参加者自身に置き換えてイメージしやすかったためか、2日間にわたり皆さんの気持ちのこもった熱い議論が交わされていました。夜の懇親会も大いに盛り上がり、参加者同士の横のつながり作りに役立てられています。

ワークショップでは英語限定のグループも設定されました。ご興味ある方は是非、チャレンジしてみてください!

COLUMN

PMは、今後日本支部に必要なセグメンテーションは何かをブレインストーミング形式で議論しました。

その結果より、プロジェクト・マネジャーの6つのセグメント(①シニアPM ②IT企業PM ③教育・学生 ④スタートアップ企業PM ⑤ユーザー企業PM ⑥ダイバーシティPM)を定義し、それぞれについて「キャリア形成上の課題の抽出」を実施しました。

2日目の冒頭は、PMO研究会代表の田島悠史氏より、2017年11月に北米で開催された「PMOシンポジウム」への参加結果のフィードバックを受け、エンタープライズPMOやアジリティについての理解が共有されました。

その後、6種類のPMセグメントについて、それぞれのグループで課題認識と解決策を議論し、解決策を説明



参加者 集合写真

するための成果物を作成しました。2日目の締めくくりは、各グループのプレゼンテーションと質疑応答です。制限時間内でグループの成果をアピールするために知恵と工夫を凝らした熱のこもったプレゼンテーションが行われ、多くの質問やコメントで大変盛り上がった質疑応答となりました。

日本支部のリーダーシップミーティングは、PMコミュニティをより一層活性化させるための毎年恒例のイベントとして、今後も発展していくことが期待されています。

新入会オリエンテーション

2017年度に新設した新入会オリエンテーションを2018年も東京にて4回(四半期毎)開催しました。新しく日本支部に加入いただいた個人会員の皆さまに、PMI本部、日本支部、部会活動などご理解いただき、会員価値を最大限に活用していただくことを目的としています。

2018年度は新入会者への個別のご案内のみでなくホームページでも広く募集しました。毎月100名以上の方々が支部へ入会されていることから、ボランティア活動に参加いただける環境をご理解いただくことはとても重要なことと考えています。会場の広さに制限あり、一回あたり30名程度の方々にしか参加いただけないのが残念ですが、大変好評をいただいています。



オリエンテーションでは、①PMI本部について、②日本支部について、③部会活動についてで45分の説明を行った後、Q&Aへと続きます。

座学後はネットワーキング(交流会)を設定し、理事、事務局員、ボランティアを含めてオープンなコミュニケーションを促しています。

Q&Aの時間にはなかなか聞けなかったことなども確認でき、同じ時期に入会された会員同士の繋がりも拡大できることから、これも高評価をいただいています。

参加者の方々の職種の傾向として、昨年まではIT系が多かったのですが、今年は非IT系の方々が増加しており、日本支部会員層の幅が拡大していることを実感しています。

オリエンテーションは無料で参加できますので、支部に新規入会された方以外にも、入会しているが活動場面や特典の活用方法がわからないといった方々も、積極的に参加いただければ幸いです。



新入会オリエンテーション参加者
PMタレントコンピテンシー研究会 石井 友美子

私はPMP取得の際に日本支部へ入会し、新会員オリエンテーションには、一緒にPMPを受験した会社のメンバーと参加しました。オリエンテーションでは日本支部のイベントやセミナー、さまざまな活動について知ることができ、交流会では理事の方々から話しかけてくださり部会活動などについてお話を聞くことができ、とても良い機会でした。

その結果、私も何か活動に参加してみたいという気持ちが強くなり、さっそく部会の見学を申し込みました。フォーラムやFestaなどのイベントに参加したり部会活動に参加したりして、刺激を受けながら楽しく活動しています。

COLUMN

PMI 日本支部 2017-2019 中期計画の進捗確認

支部活動のさらなる充実に向け着実に進展

2018年度は、日本支部中期計画2年目の年でした。上期は年間計画の内容確認、各戦略委員会へのヒアリング等を行い、実施に向けての課題や見直しの必要性等を確認しました。

10～11月には、2019年度計画策定に向けて各戦略委員会や部会に2018年度の施策を評価してもらい、それを基に中期計画全体のレビューを実施し、計画の見直しや支部としての追加アクションの必要性を検討しました。

全体としては、施策の進捗に濃淡が生じているものの、概ね施策の具体化等が進展したと評価できます。

まず特筆すべき点としては、当初中期計画にはあがっていませんでしたが、各戦略委員会が日本支部創立20周年事業に注力したことが挙げられます。その中で、「タレント・トライアングル」の記念出版やアクティブメンバーの海外派遣はPMI戦略の具体化、グローバル化対応の充実に貢献できたと言えます。

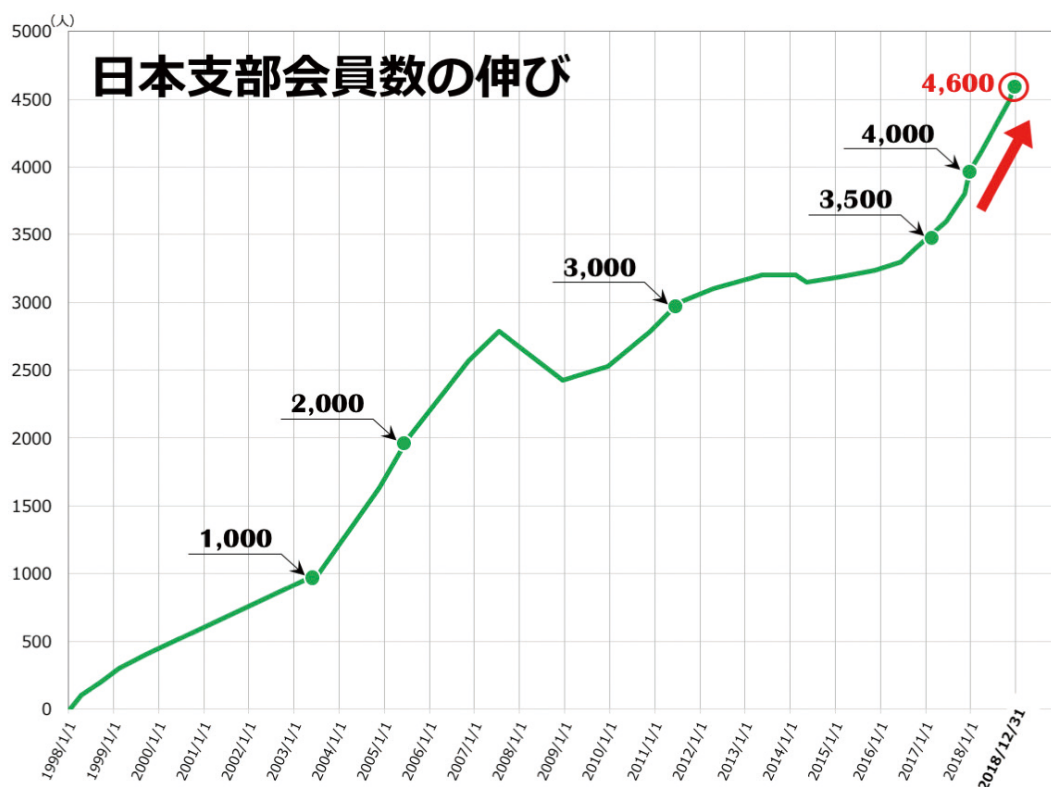
また中期計画策定時にはあがっていなかった環境変化や課題についても柔軟に対応できています。PMI本部の戦略変更に対応する形で、日本支部リーダーシップミーティングでターゲットとなるPMのプロフィール、課題、対策等を検討したこと、この他、グローバル化対応ではこれまでのR9に加え、R15、R7、サンパ

ウロ支部との交流において日本支部の活動を告知し、海外でのプレゼンス向上が具体化できたこと、ドイツのインダストリー4.0の調査や組織拡大委員会によるSDGsへの取組と社会的な課題へもいち早く取り組むなど柔軟な対応ができたと評価できます。

一方、2018年は理事改選後の1年目であり、新体制での理事の割り当てやメンバーの入れ替えがあり、引継ぎも含めてスタート時には取組が迅速には機能しなかった点は否めません。

課題としては、組織拡大委員会のメンバー改選に伴い、法人スポンサー担当理事を設置したものの、委員会としては他組織との連携等での組織拡大に軸足を移しているため、主要施策としてあがっていた法人スポンサー関連施策の見直しが必要ながまずあげられます。また、グローバル化の諸課題については、国際連携委員会、教育国際委員会との統合的な施策推進が必要となりますが、両者の組織体制、役割分担の見直し、施策の修正が必要であることが最終年に向け見直すべき課題としてあげられます。

いずれの施策も理事やアクティブメンバーの熱意に依存しており、最終年としての成果を目指すためにも戦略運営委員会と連携して柔軟な運営を図り、支部活動のさらなる充実に向けて活動して参ります。



2017-2019中期計画

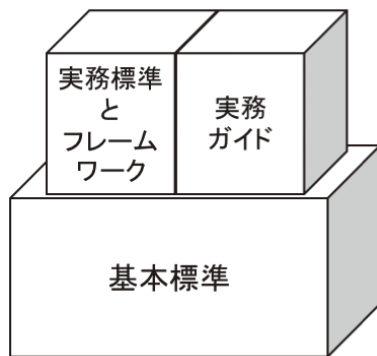
No	施策名	目的	推進主体
【I】 PPPMの普及推進			
1	PPPM 普及推進戦略の確立	PPPM に関する内外の動向を調査、把握し、日本におけるニーズを分析して、PMI 日本支部の戦略的な取り組みを調整、提起する	理事会
2	PMI 標準翻訳	質の高い PMI 標準書を邦訳する	標準推進委
3	PMI 標準の普及	翻訳された PMI 標準書を普及する	標準推進委
4	海外での Program Management, Portfolio Management の活用事例の紹介	普及の進んでいない Program Management, Portfolio Management での定着	国際連携委
5	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用分野の開拓	ポートフォリオマネジメント、プログラムマネジメントの応用について、ノウハウや知見をまとめ、普及の一助とする。	ポートフォリオ / プログラム研究会
【II】 グローバル化対応			
6	PMI のリソースとグローバルなネットワークを活用した PM 教育の普及・グローバル化の推進	教育機関の取り組み課題である能動的人材育成（アクティブ・ラーニングの強化）、世界で活躍できるグローバル人材の育成に貢献する	教育国際化委
7	PMIJ のプレゼンス向上	PMIJ での活動（特に IRC）を R9、R15 等のカンファレンスで紹介し、グローバルプロジェクトを行う上での基礎知識として現地の方に広める。また、その機会を通しコミュニケーションチャンネルを構築する	IRC
【III】 他団体との連携強化			
8	PM に関係する団体との連携による PM 普及、強化活動	PM を実際に活用するユーザーの団体と連携し PM の普及を図る	企画担当理事
9	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応策としての PM の普及、強化活動	イノベーション、IoT、デジタル社会への対応についても関連団体連携し、実現の推進力としての PM の実装、活用を推進する	企画担当理事
10	国内外の PM 教育に関する情報交流 HUB 機能の強化	高等教育機関、中等教育機関で、PM の基礎を現場の教育に取り入れることができる教員や教育協力者が増え、PM 教育のすそ野を拡大させる。	教育国際化委
11	R.E.P. との関係強化	会員サービスの向上 / PMI 方針・施策の浸透 / 市場ニーズの把握 / 個人会員の増加	REP 友の会
【IV】 PM 適用分野の拡大			
12	外部表彰	PMI 本部表彰制度を活用し、優れた PM 実践者 / 組織を表彰することで、PMI 日本支部と PM に対する社会的認知度を向上する	理事会
13	PM 教育の必要性・有効性に関する啓発活動の強化	人材育成における PM 教育の有効性、必要性を社会に広く認知させる	教育国際化委
【V】 首都圏以外での活動拡大			
14	PM 活動による地域における価値創出の促進	PM 活動を地域社会の充実化・活性化につなげるとともに、PM 有効性を発展させる	地域サービス委
15	地域における PM 活動のプロモーション強化と参加しやすい環境づくり	PM コミュニティやランチ活動の認知度向上および、活動体制の強化につなげる	地域サービス委
【VI】 PM を通じた社会貢献の展開			
16	社会貢献活動の実践を通じた PM 手法、資産の充実と普及展開	PMI 日本支部として社会貢献活動を行うことにより PM の適用領域を拡大する	ソーシャル PM 研究会
【VII】 支部活動基盤の整備			
17	部会リーダー交流会の設定と運営	・部会間での連携強化 ・理事会や戦略委員会への要望や提言の場を提供する	PM コミュニティ活性化委
18	戦略運営委員会の運営確立	PMI 日本支部のガバナンス体制向上に向けた委員会改編に伴う体制確立	企画担当理事 / 戦略運営委
19	複数の部会での共同企画の開催	・部会間での連携強化 ・お互いの知見を活用することによる企画の質や効率の向上	PM コミュニティ活性化委
【VIII】 アクティブメンバーへの支援強化			
20	リーダーシップスキル育成	各部会のアクティブメンバーの質の向上	PM コミュニティ活性化委
21	ボランティア・コミュニティの運営手法の体系化	各部会の活発な活動の実現を支援する	PM コミュニティ活性化委
22	日本支部会員に対する価値ある情報の発信	PMI 本部、日本支部、部会活動などの会員限定の情報を発信することにより、会員である価値を高め、リテンション率の向上とアクティブメンバーの増加をめざす	PM コミュニティ活性化委
【IX】 サービスの向上			
23	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上①	法人ごとの PMI に求める価値の仮説設定による木目細かな施策の展開	組織拡大大委
24	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上②	法人スポンサー拡大のために追加の特典、施策を検討し展開する	組織拡大大委
25	法人スポンサー拡大に向けサービスの更なる向上③	法人スポンサー企業の身近な存在としての認知度向上	組織拡大大委
26	新規入会者へのガイダンス	新規入会者のリテンション率向上	組織拡大大委*
【X】 会員増強			
27	法人スポンサー企業の個人会員増加施策	法人スポンサーの窓口経由で個人にアプローチし、いろいろなベネフィットの違いも提示して個人会員に誘導する	組織拡大大委

※2018年度から PM コミュニティ活性化委に変更

PMI 標準の最新情報

PMIの標準

PMIでは、「PMBOK®ガイド」、プログラムマネジメント標準、ポートフォリオマネジメント標準を代表とする標準を発刊し、継続して更新してきました。特に近年は、新しい標準や新しい版が相次いでリリースされています。PMIの標準は、社会、経済、政治、技術などの状況を捉え、プロジェクトマネジメントの知識とフレームワークを常に最新にしており、世界的なプロジェクトマネジメントの基盤と言えます。標準には、「基本標準」、「実務標準とフレームワーク」、そして「実務ガイド」の3つのカテゴリーがあります。

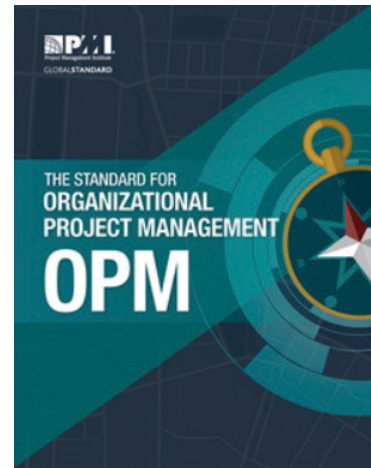


3カテゴリーの標準

出揃った基本標準

基本標準は、従来、プロジェクトマネジメントに関する知識の基礎を提供するためのプロジェクト、プログラムおよび、ポートフォリオマネジメント、そしてプロジェクトマネジメントの組織的なアプローチという観点での、4つの専門分野で構成されていましたが、2017年にはプロジェクトマネジメントの上流であるビジネスアナリシスの領域が「The PMI Guide to Business Analysis」として発刊され、領域が拡張されました。そして、2018年には「The Standard for Organizational Project Management (OPM)」が発刊され、6つの基本標準となりました。

- 「PMBOK®ガイド」第6版
- プログラムマネジメント標準第4版
- The Standard for Portfolio Management – Fourth Edition –
- The PMI Guide to Business Analysis
- 組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル第3版
- The Standard for Organizational Project Management



The standard for Organizational Project Management (OPM)

OPMとは、組織の戦略目標を支援するために、プロジェクト、プログラム、およびポートフォリオマネジメントの原則と実務慣行を策定し、組織イネーブラと組織プロセスを結び付けることにより、組織能力を高めることを目的としています。つまり、組織の戦略と、実施している、または計画しているプロジェクトやプログラム間の整合をとっていきます。このためには組織全体にプロジェクトマネジメントが根付いているかを方法論、知識マネジメント、タレント・マネジメント、ならびガバナンスの観点で確認し、必要に応じて、改善を図っていきます。

今後改訂される実務標準

実務標準とフレームワークは、基本標準で使用されているツール、技法またはプロセスについて、より詳細に説明しており、アーンド・バリュー・マネジメント実務標準、プロジェクト・リスク・マネジメント実務標準、プロジェクト見積り実務標準などがこれにあたります。

基本標準が出揃いましたので、今後、これらに合わせて改訂される可能性があります。

充実された実務ガイド

実務ガイドは、基本標準を実際に適用するにあたり、役立つ補足情報と教示が提供されており、基本標準では表現できなかった実務的な内容を説明しています。

これらは基本標準とは異なり、PMIでさまざまな機関とプロジェクトマネジメントの実務に関するの先行研究(Pulse of the Professionなど)を行い、実務ガイドとして発刊されており、今後も増えてくる可能性があります。すでに、2019年1月には、新たに Benefits

Realization Management (BRM) が発刊されました。現在7つの実務ガイドが発行されていますが、このうち、現在日本語化されているものは、

- ・アジャイル実務ガイド
 - ・実務者のためのビジネスアナリシス:実務ガイド
 - ・組織のチェンジマネジメント:実務ガイド
- の3つです。

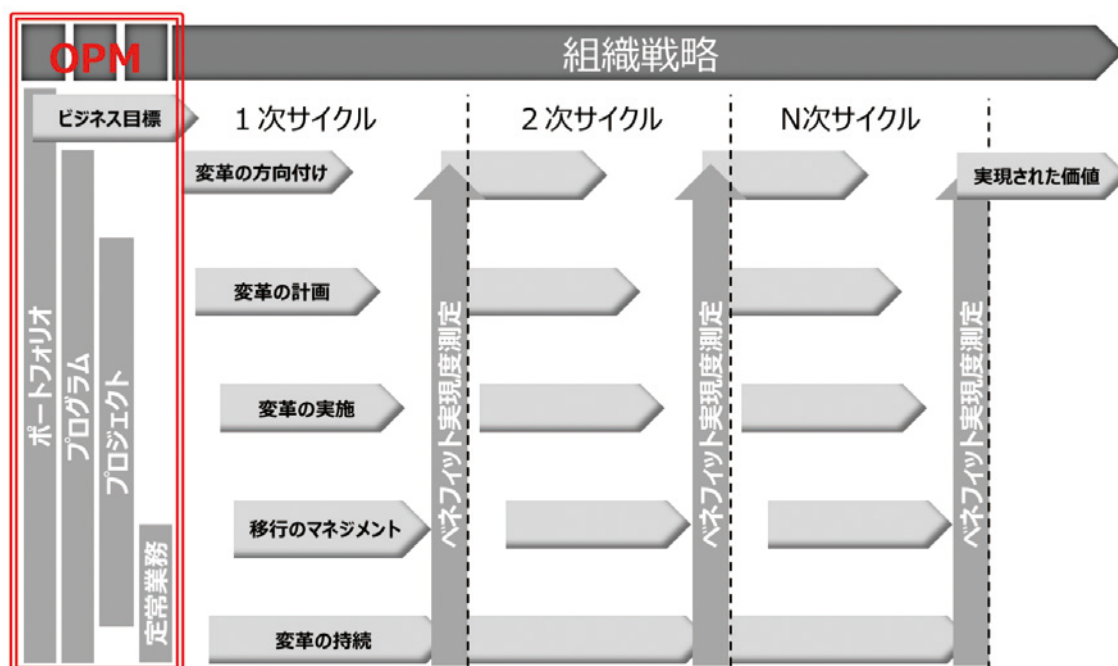


組織のチェンジマネジメント:実務ガイド

チェンジマネジメントとは、事業におけるベネフィットを意図して、現状から将来の状態へ個人や組織を移行するための包括的で構造的なアプローチです。環境変化の中で組織がチェンジマネジメントを行う際に、変革の方向付け、変革の計画、変革の実施、移行のマネジメント、変革の持続といったライフサイクルを通して変革を実施していきます。そして、この変革を実現するために、このライフサイクルに合わせてプロジェクト、プログラム、ポートフォリオを活用します。

標準のテーラリング

さて私たちの周りを見てみますと、プロジェクト・タイプの仕事や業務がたくさんあります。身近なところでは、結婚式や運動会、そして発表会などのイベントはすべてプロジェクトといえます。ところがほとんどの人は「プロジェクト」という意識なしで運営しています。これらを効率的かつ効果的に成功させるためのフレームワークが「プロジェクトマネジメント」であり、その世界標準が「PMBOK®ガイド」なのです。働き方改革を進めるにあたっても大いに役立つことでしょう。



OPM 観点でのチェンジマネジメント・ライフサイクル

出典:「組織のチェンジマネジメント 実務ガイド」図3-4

破壊的テクノロジー時代にフォーカスした新たな PMI® の取り組み

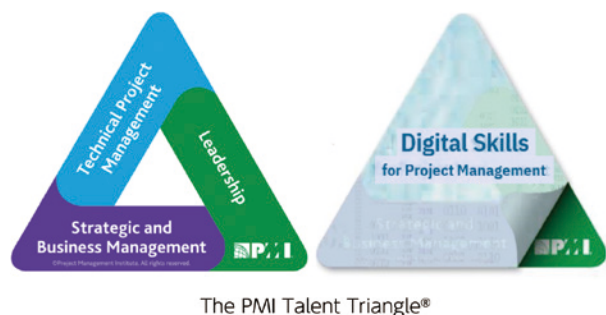
2019年に創立50周年を迎えるPMIは、2018年12月末時点で、全世界208ヵ国300支部と7支部候補、会員数は55万人を超え、堅調に組織拡大を続けています。PMP®などの認定資格保有者数は96万人を数え、年間で7万人以上の増加となりました。

2018年は、PMIの戦略目標である3つの柱、①戦略の集中、②お客様中心、③組織のアジリティ、に整合するように、市場を席巻するデジタル・テクノロジーによるディスラプティブ(破壊的)イノベーション時代にフォーカスした新たな方向性が示されました。PMI自身も、成長し続ける組織として、変化するビジネス環境や求められる人材の開発に対応した、迅速かつ柔軟な方針を打ち出しています。

1 ディスラプティブ(破壊的)イノベーション時代の新たなチャレンジ

PMIの動向調査である2018年度版Pulse of the Profession® In-Depth Report「The Project Manager of the Future」(将来のプロジェクト・マネジャー像)において、デジタル・テクノロジーがプロジェクトマネジメント人材のスキル領域に大きな影響を与えることが記されています。タレント・トライアングルが示す3つのスキル領域であるテクノロジー、リーダーシップ、および戦略とビジネスを覆う形で、「プロジェクトマネジメントのためのデジタル・スキル」が取り上げられています。デジタル時代においてプロジェクトをリードしていくためのトップ6のデジタル・スキルとしては、データ・サイエンス・スキル、イノベティブなマインドセット、セキュリティとプライバシー知識、法令コンプライアンス、データ駆動型の意思決定能力、そして協働的リーダーシップ・スキルがあげられています。

また、プロジェクトのアプローチについては、これ



まで主流であった「予測型」(ウォーターフォール)に対して、変化への即応ができる「適応型」(アジャイル)と、これら2つを組み合わせたハイブリッド型の適用数が拮抗していることが、Pulse of the Profession®「Success in Disruptive Times」(破壊的時代における成功)にて報告されています。破壊的イノベーション時代において、素早い変化への対応のみならず、さまざまなアドバンテージを得るためには、新たなデジタル・スキル領域や、アジャイルを含む複数のアプローチを使いこなせる人材の育成が求められています。

2 組織のアジリティの更なる強化

11月に開催されたPMOシンポジウムにおいて、3冊のThought Leadershipシリーズが発表されました。

複雑化するビジネス環境や進化し続けるテクノロジーに俊敏に対応し戦略目標を達成していくためには、PMOの指導力に基づく革新的な組織文化の醸成や、変化への迅速な対応が期待されています。従来の、予算とスケジュール通りの開発から、戦略目標達成に向けた価値創出に、成功基準がシフトしてきているのです。



Pulse of the Profession® と2つの In-Depth Report
<https://www.pmi.org/learning/thought-leadership/pulse>



Thought Leadership シリーズ

<https://www.pmi.org/learning/thought-leadership/series/disruptive-technologies>

3 デジタル時代に即した学びの多様化

PMIでは、少人数のワークショップである SeminarsWorld® や、充実したオンライン・コースなど多岐にわたるコースを提供しています。これらの有償コースの他に、近年PMIが力を入れているのが、無償の学びの場です。

その一つが、ProjectManagement.com で提供される Webinar です。プロジェクトマネジメントのベスト・プラクティスやトレンドなど、コンテンツも豊富に揃っており、視聴1時間で1PDUを獲得することができます。手軽に学習できる利便性を兼ね備えているのが魅力です。2017年にスタートしたPMI初のポッドキャ

スト Projectified™ は、2018年には25コースが開催されました。こちらはさらに短く30分程度となっており、著名なゲスト・スピーカーから旬のトピックを学ぶことができます。そして2018年には、新たにゲーム感覚で楽しめるPM EDGE™ が発表されました。トピック毎にフラッシュ・カードで学習を行い、クイズに答え、合格するとPM EDGE™ バッジを獲得できるという仕組みになっています。デジタル世代に適応した、新たなコンテンツの開発にも力をいれています。



2019年に向けた取り組み

PMI 創立50周年を記念した施策の一環として、PMI は国連が主導するSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) に、2019年12月末までに50,000時間を提供することをコミットしています。世界中のPMI支部や会員がこの取り組みに協賛し、目標達成を目指すことになります。日本支部も、日本政府が進めているSDGs部会への参加登録を行っており、社会貢献への取り組みとして注目の施策となりそうです。

ProjectManagement.com の Website: <https://www.projectmanagement.com/>

Projectified™ の Website: <https://www.pmi.org/learning/training-development/projectified-podcast>

PM EDGE™ の Website: <https://edge.pmi.org/>

PMI の SDGs への取り組み: <https://www.pmi.org/anniversary/global-celebration-of-service>

海外コンファレンス

PMIは、毎年秋に大規模な国際的イベントを北米で開催しています。世界各国から2,000名以上が参加したPMI Global Conferenceは、2018年10月にロサンゼルスで開催されました。11月には、PMOにフォーカスしたPMOシンポジウムがワシントンD.C.で開催され、600名以上が参加しました。これらのイベントを通じて、PMIは新たな戦略や最新動向を発信すると共に、研究成果やベスト・プラクティスを共有する多数のセッションが催され、参加者の学びの場、ネットワーキングの機会となっています。

2つのイベントで共通している2018年のテーマは、

デジタル時代の破壊的テクノロジーに、プロジェクトやプログラムマネジメントとそれを担う人材がどのように変化し、適合していくかという点です。ここ数年のトレンドである、アジャイルやベネフィット実現マネジメントの重要性が、さらに増してきたと言えます。

PMI® Global Conference

近年のデジタル・トランスフォーメーションに関するトピックや、それに伴うプロジェクト・マネジャーの役割の変化、そして求められるビジネス・スキルやヒューマンスキルに関する100以上のセッションが開かれま

プロジェクトマネジメントの動向

した。AI、IoT、ビックデータやロボティクス等のデジタル・トランスフォーメーションの中で、プロジェクト・マネジャーが、人と人とを繋ぐ重要な役割を担うとメッセージされていたのが印象的でした。

PMO Symposium®

デジタル時代の破壊的テクノロジーに対応するための、新しい能力やスキルであるネクスト・プラクティス



Globalカンファレンスのオープニングセッション

に関するセッションが多数開催されました。また、経営戦略と密に連携し、全社視点でのPPPM（プロジェクト、プログラム、ポートフォリオマネジメント）を実践する一元的な組織としてのセントラルPMOの事例発表が多かったことが特徴的でした。「Thought Leadership Series」も3種類公開され、「PMO/EPMO（エンタープライズPMO）」を再定義し、その実践のために必要な新しい能力と組織の在り方（次世代PMO）について調査分析が試みられています。



PMOシンポジウムのパネル・ディスカッション

2018年度 海外カンファレンス開催地と出張理事

※部会代表者

	日程	会議名称	開催地	人数	氏名
1	3月21日～24日	Region7 Meeting	ハワイ	1	片江副会長
2	4月21日～22日	Region9&15 Joint Meeting	バンコク	5	奥澤会長、浦田副会長、水井理事、杉村顧問、吉田事務局長
3	5月4日～6日	PMI Leadership Institute Meeting -EMEA	ベルリン	1	片江副会長
4	9月18日～20日	17 SIGP(Seminário Internacional de Gerenciamento de Projetos)	サンパウロ	1	片江副会長
5	10月4日～6日	PMI Leadership Institute Meeting -North America	ロサンゼルス	1	水井理事
6	10月6日～8日	PMI® Global Conference	ロサンゼルス	3	水井理事、遠山文規* 関口匡稔*
7	10月9日～10日	PMI China Congress	北京	2	片江副会長、木南理事
8	10月26日～28日	PMI Mongolia International Conference	ウランバートル	3	端山副会長、除村理事、金子啓一郎*
9	11月3日～4日	PMI Hong Kong Congress	香港	2	除村理事、西山事務局員
10	11月10日～11日	PMI Taiwan International Congress	台北	2	浦田副会長、麻生理事
11	11月11日～13日	PMO Symposium®	ワシントンD.C.	4	斉藤理事、武上理事、芳賀健治*、芳賀和郎*



PMIモンゴル支部主催 International Conference 参加者
PMタレントコンピテンシー研究会

金子 啓一郎

COLUMN

PMIモンゴル支部の第5回 International Conference にて発表する機会をいただき、初めてウランバートルを訪れました。

モンゴルについては知人を通じて、語順が日本語に似ている言語や移動式住居ゲルでの生活の様子などを聞き、一度行ってみたいと考えていました。私はPMコンピテンシー開発のワークショップについて発表しましたが、小さな会場に聴講者があふれ、日本からの発表に対する関心が高いことを感じました。

参加者層は若く、女性が多いという印象でした。特に運営側は、会長以外は理事も20代と30代、ボランティアは女子学生が多く、皆、英語が堪能で、非常に積極的でした。これまで知らなかったモンゴルの一面に触れることができ、とても有意義に過ごせました。

個人会員制度

➤ 会員制度のメリット

プロジェクトマネジメントに関して体系化されたアプローチと方法論・事例に関する知識を深く理解するために、PMP®などの取得・維持は極めて有効です。日本支部のメンバーになることで、そのための強力な支援が受けられます。

◆プロジェクトマネジメント実務者の方には

他社プロジェクト・マネジャーとの交流、PMI関連資格保持・更新のための情報収集のほか、ベストプラクティスやプロジェクトマネジメントの近況・見通し、PMI関連の研究状況の把握などにより、プロジェクトマネジメントに関する自己啓発につながり、実務能力を向上させる機会となります。

◆経営者の方には

プロジェクト・マネジャーの育成、ベストプラクティスの研究結果や方法論の実践により、経営や組織の能力を高める機会となります。

◆一般の方には

今話題のあらゆる分野のプロジェクトマネジメントについて、専門的な知識・情報取得のチャンスとなります。

➤ 日本支部会員の特典

① セミナー受講費の割引

日本支部主催のフォーラム、Festa、月例セミナー、アジャイル関連セミナーなど各種セミナー（下表および次ページの図を参照）に割引価格で参加いただけます。また、PDU、PMP®受験研修時間、ITC実践力ポイントなどの受講証明書を発行します（地域セミナーなど一部に発行対象外のものもあります）。

規 模	セミナー名称	PDU	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期
大規模 (数百人)	日本フォーラム（2日間）	12			★	
	Japan Festa（2日間）	9~11				★
中規模 (100人)	月例セミナー（2時間/回）	2	★	★	★	★
	各種フリーセミナー （3~4時間/回）	3~4			★	★
小規模 (10~30人)	PMBOK®セミナー（2日間）	14	適 宜			
	アジャイルPM、デザイン思考、 ソーシャルPM、PMO、リス ク、ステークホルダー、ケース メソッド、PMBOK6版紹介、 PgMP資格取得講座などW/S (1日)	6~7	適 宜			

② 各種委員会、研究会などへの参加

各種の委員会、研究会等に参加することで、プロジェクトマネジメントに関わる技術研鑽、異業種の方々と

情報共有・交流（skype等も活用）しながらPDUも取得できます。また、これらの活動の成果は毎年夏に開催する日本フォーラムで発表されています。2018年は28部会から36編の発表がありました。

【戦略委員会】

①地域サービス、②PMコミュニティ活性化、③組織拡大、④国際連携、⑤教育国際化、⑥標準推進

【研究会】

①IT、②IPPM、③ポートフォリオ・プログラム、④PMタレントコンピテンシー、⑤組織的PM、⑥リスク・マネジメント、⑦PMO、⑧PMツール、⑨女性PMコミュニティ、⑩IRC、⑪アジャイルPM、⑫ソーシャルPM、⑬ステークホルダー、⑭ビジネス・アナリシス、⑮プロジェクトマネジメント、⑯PM教育、⑰PM翻訳・出版

【プログラム】

①PMBOK®セミナー、②メンター、③セミナー

【関西ブランチ】

①運営委員会、②PM実践研究会、③医療PM研究会、④IT上流工程研究会、⑤定量的PM事例研究会、⑥PM創生研究会

【中部ブランチ】

①運営委員会、②PMサロン、③地域ソーシャル・マネジメント研究会

③プロジェクトマネジメント関連書籍の割引購入

ホームページを通じて「PMBOK®ガイド」やプログラムマネジメント標準などのプロジェクトマネジメント関連書籍を会員価格（一般価格の6割~9割）で購入いただけます。

	タイトル	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第6版 + アジャイル系ガイド（日本語版）セット
	価格	一般： 12,000円（送料・税込） PMI日本支部会員：8,000円（送料・税込） 法人スポンサー： 9,000円（送料・税込）
	発行年	2017年
	著者	Project Management Institute, Inc.
商品説明		プロジェクトマネジメント知識体系ガイド（PMBOK®ガイド）第6版にアジャイル系... 詳しくはこちら

④ 翻訳記事やPMBOK®テンプレート集などの閲覧、ダウンロード

会員専用ホームページで、PMI本部が発行しているPM Network®やPMI Today®などの翻訳記事を参照できるほか、プロジェクトマネジメント研究会やPMタレントコンピテンシー研究会、リスク・マネジメント研究会など部会メンバーが作成した実務向けのテンプレートをダウンロードしてご利用いただけます。また、日本支部における過去の翻訳プロジェクトの成果を取り入れてガイドラインとしてとりまとめた日本語表記法を参照いただけます。

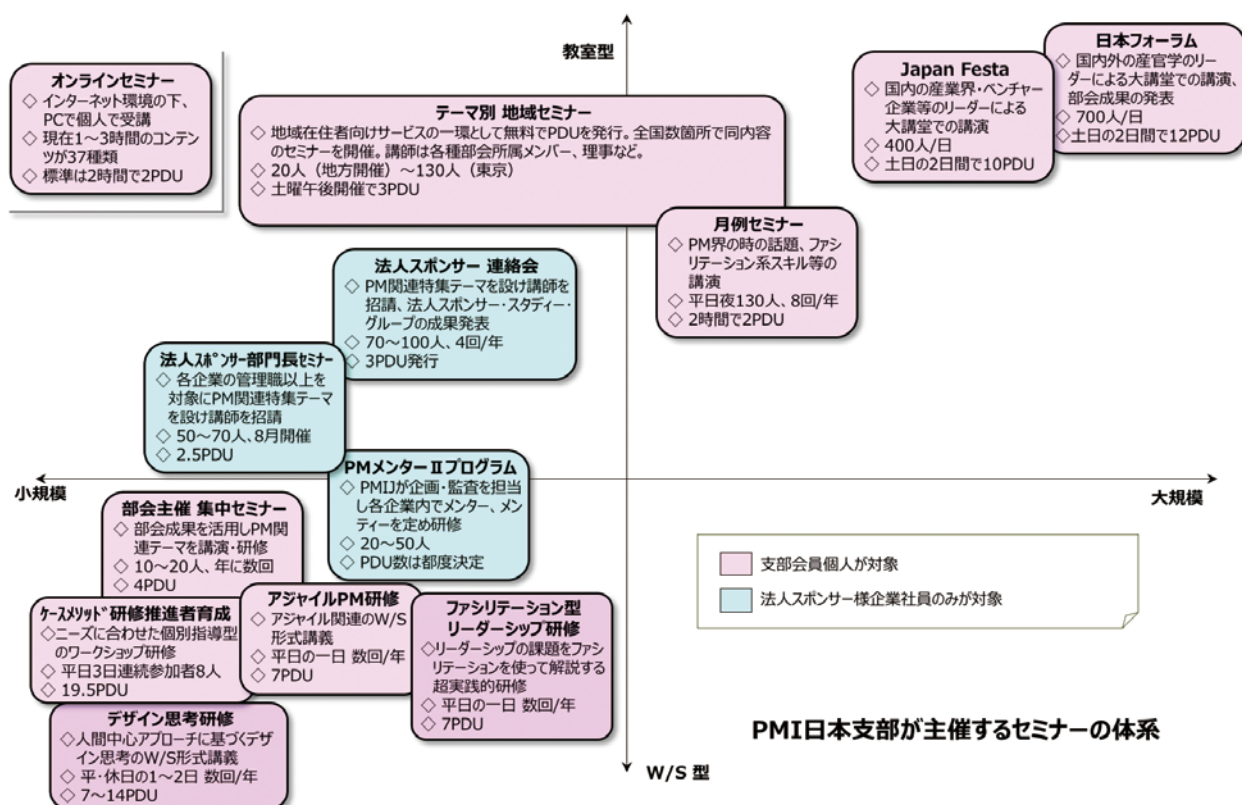
会員向けサービス

▶ 入会手続き

日本支部に入会いただくには、まずPMI本部に入会いただく必要があります。PMI本部ウェブサイトからオンラインサービス登録を行ってください。日本支部会員登録も同サイトから行えます。決済にはクレジットカードがご利用いただけます。なお、入会時の総必要額189ドルは、例えば日本フォーラムに2日間通して

ご参加いただいた場合の会員価格と一般価格の差額に相当します。日本支部会員としてのさまざまな特典を活用しつつ、プロジェクトマネジメント・スキルの研鑽をお積みください。

PMI 本部		PMI 日本支部	合計
入会費	年会費	年会費	
10ドル (入会時のみ)	129ドル	50ドル	●入会時は189ドル ●以降1年ごとに179ドル



〔参考〕 日本支部会員数、日本国内におけるPMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年 度			
	2015	2016	2017	2018
PMI 日本支部会員	3,227	3,422	3,932	4,633
CAPM® 資格保有者	85	98	119	145
PMP® 資格保有者	32,491	34,451	36,308	36,437
PfMP® 資格保有者	1	3	3	3
PgMP® 資格保有者	3	4	5	7
PMI-RMP® 資格保有者	6	6	7	8
PMI-SP® 資格保有者	4	4	4	4
PMI-PBA® 資格保有者	2	3	4	10
PMI-ACP® 資格保有者	16	24	35	60

〔参考〕 全世界でのPMI会員数、PMI関連資格保有者数の推移

(各年12月末現在)	年 度			
	2015	2016	2017	2018
PMI 会員	478,493	472,269	500,461	556,839
CAPM® 資格保有者	30,474	32,868	34,504	37,258
PMP® 資格保有者	694,534	745,891	827,960	884,518
PfMP® 資格保有者	286	403	506	640
PgMP® 資格保有者	1,483	1,788	2,173	2,550
PMI-RMP® 資格保有者	3,443	3,886	4,540	5,051
PMI-SP® 資格保有者	1,448	1,603	1,782	1,910
PMI-PBA® 資格保有者	569	1,127	2,020	3,073
PMI-ACP® 資格保有者	10,351	14,021	19,295	24,998

法人スポンサー・プログラム

法人スポンサー・プログラムとは

法人スポンサー・プログラムとは、組織（企業、教育機関、行政機関等）でのプロジェクトマネジメントの普及、向上に関心を持ち、日本支部のミッションに賛同し、その活動を支援して下さる組織の皆さまに対し提供するプログラムです。

法人スポンサー・プログラムのメリット

- ◆日本では数少ない、組織のプロジェクトマネジメント推進ご担当者の意見交換、相互研鑽および人脈拡充の場です。内外のプロジェクトやプロジェクトベースのビジネスに関する最新のトレンドやトピックについて、イベント参加者や関連分野の専門家を講師として招聘し、学習・意見交換を行います。会合は年5回、定期的に開催しており、多くの方々に参加いただいています。
- ◆社員の方々は、プロジェクトマネジメントに関する研鑽の場となる勉強会（スタディー・グループ）に参加できます。
- ◆メールマガジンにより法人スポンサー・プログラムや日本支部主催イベントのご案内をさしあげます。また、日本支部主催イベントへの参加や日本支部で取り扱う書籍の購入に際し、特別割引が受けられます。
- ◆法人スポンサーとして会社ロゴ、会社名を日本支部のホームページに掲載しますので、プロジェクトマネジメントに熱心な企業として広く社会にアピールすることができます。

2018年 法人スポンサー・プログラム実績

(1) 法人スポンサー連絡会※1、PM部門長セミナー※2

法人スポンサー様の社員が参加できるもので、参加者には無料でPDU受講証明書（通常3PDU）を発給し

ます。法人スポンサー連絡会は四半期ごとに開催しており毎回100名超の参加を、PM部門長セミナーはPM部門長向けに毎年8月に開催しており50～70名の参加をいただいています。

※1 PMおよびPM人材育成部門の方々に、PM界の最新情報をお伝えします。
※2 PM部門長の方々に對して、部署をリードする際に必要な最新の知識をお伝えします。



2018年度 法人スポンサー連絡会等での講演実績

連絡会での講演	
3月度	特集：組織のチェンジマネジメント ①組織のチェンジマネジメント/PMI実務ガイド 紹介 講師 庄司 敏浩氏/ビジネスアナリシス研究会前代表 ②PMO Symposium 2017 参加報告 講師 田島 悠史氏/PMO研究会代表 ③産学連携でのAI LabとAI人材育成の取組みについて 講師 福田 崇之氏/学校法人金沢工業大学、武上 弘寿氏/PMI日本支部理事
6月度	特集：企業価値創造とプロジェクトマネジメント ①クリエイティブで新しい変化をどう作り出すか 講師 中谷 英雄氏/株式会社 ビーエム・アライメント 取締役 ②CSV(共有価値の創造)の実践 講師 高橋 正憲氏/PMI日本支部顧問、ソーシャルプロジェクトマネジメント研究会 ③新規事業開発におけるPMの重要性と人材育成 講師 当麻 哲哉氏/慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授
9月度	特集：組織における次世代PM育成 ①次世代を担うPM人材育成 講師 池田 修一氏/PMI日本支部 理事 ②宇宙で通用するリーダーの育て方 ～JAXAにおける宇宙飛行士養成～ 講師 長谷川 義幸氏/元JAXA国際宇宙ステーションプログラムマネジャー ③BRM時代のプロジェクトマネジメント人材および、育成に向けた課題 講師 塩田 宏治氏/PMタレントコンピテンシー研究会代表
12月度	特集：PMIタレント・トライアングル ①デジタル・ディスラプション時代のプロジェクトマネジメント・スキルを考える 講師 齊藤 学氏/PMI日本支部 組織拡大担当理事 ②スタディーグループ(SG)報告 ①人材育成SG ②若手PM育成SG ③PMコミュニティSG ④ケースメソッドSG
部門長セミナー	
8月度	特集：ニュービジネスを支えるプロジェクトマネジメント ①ビジネスアジリティを実現する三つの柱 講師 森側 真一氏/日経BP総研イノベーションICTラボ首席研究員 ②ドイツ Industry4.0とプロジェクトマネジメントの重要性 片江 有利氏/PMI日本支部 副会長 ③成功事例に学ぶシステムズエンジニアリング 端山 毅氏/(独)情報処理推進機構 社会基盤センター イノベーション推進部 主任研究員

(2) 法人スポンサー・スタディー・グループ

スタディー・グループは、法人スポンサー様の社員のみで構成される勉強会で、各企業が抱える課題につ



人材育成スタディ・グループ 小山 透

2011年4月 PMP 取得と同時期に日本支部会員となり、2012年10月からは人材育成スタディ・グループのメンバーとして活動しています。

プロジェクト・マネジャーには、3つのコンピテンシー「知識」、「実践」、「人格」が必要であるとされています。人材育成スタディ・グループでは特に「人格」に着目した研究をしていることが興味深く現在も精力的に活動し、毎月の定例会合や年1回の合宿では、活発に議論を交わしています。

また、年5回開催される法人スポンサープログラムにも殆ど参加しています。毎回魅力的なテーマで講演が行われ、質疑応答も活発です。セミナー後の交流会を含め有意義な時間を過ごさせていただいています。

COLUMN



いて意見交換、調査研究を行っています。2018年は延べ63の企業から68名の方々の参加のもと、4グループが活動しました。

各スタディー・グループの活動概要は下記の通りです。なお、PMコミュニティ・スタディー・グループは、所期の目的を達成し2019年3月末にて活動終了の予定です。

◆人材育成スタディー・グループ

PMCDF(プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系)の人格コンピテンシーに着目し研究してい



合宿会議の様子

ます。2018年度は「人格コンピテンシー副読本」、「パフォーマンス基準チェックリスト」および「プロジェクト・マネジャーの人間力教科書」を作成しました。

◆若手PM育成スタディー・グループ

若手PM育成を目的に、「PM候補者選定ポイントと方法」、「PMのモチベーション維持・向上のための行動規範」について調査研究し、「PMモチベーションの維持・向上の行動」としてまとめました。現在は「若手PM育成方法」について検討中です。

◆PMコミュニティ・スタディー・グループ

ビジネス環境のスピード化、多様化、およびグローバル化に伴い、企業のPMコミュニティの重要性はますます高まっています。本SGでは「PMコミュニティがPMを変える～惹かれるPMコミュニティのつくりかた～」のスローガンのもと調査研究を行っています。

2017年はメンバー各社にアンケートを行いました。2018年はそれに基づき、マインドマップによる事例整

理を行い、法人企業様宛にもアンケートを行っています。

◆ケースメソッド・スタディー・グループ

プロジェクトを取り巻く環境はますます複雑度、困難度を増しています。このような厳しい環境下で、プロジェクトを成功に導く実践的プロジェクト・マネジャーの育成は喫緊の課題となっています。本SGはケースメソッドによる社内PM教育を行っている方々が、同業他社や他業界と共同研究することでより多くの知見やノウハウを取得することを目的としています。

(3)メンタープログラムⅡ

◆メンタープログラムⅡ

法人スポンサー様限定のプログラムです。企業の持つプロジェクトマネジメントに関わるノウハウ継承、実践力強化、トラブル対応力強化、技術習得のための教育をグループメンタリング方式で実現します。

参加するメンター、メンティーはPDUを取得できるメリットがあります。

◆対象領域

具体的には、プロジェクトマネジメントの遂行に必要な関連知識、「PMBOK®ガイド」の知識エリアおよびPMプロセス、PMIが設定したプロジェクトマネジメントに関わる各種標準などが対象となります。

◆カスタマイズされた教育プログラム

企画段階で日本支部が支援させていただき、各企業の実環境(知識、経験、対象部門等)に合ったプログラムを作成します。また、場所・日程・時間帯についてもご都合に合わせた教育プログラムの設計が可能です。

◆2018年度の実績

2018年度は大手シンクタンク、証券系ITベンダー、システムインテグレーター、宇宙・航空システム、POSレジ・店舗機器・システムなど多岐にわたる業界の4社/5件のご利用をいただきました。

アカデミック・プログラム

当プログラムは“プロジェクトマネジメント(PM)に関する知識・素養が、今後社会に求められる人材のジェネリックスキルであることを広く発信し、PM教育の普及を推進する”をミッションとして2010年以来継続的に取り組んでいます。

➤教育国際化委員会の設置

この分野での支部活動をより発展させるために新たに教育国際化委員会を設置し、2017年1月に大学・高専と産業界のメンバー15名によって活動を開始。

2018年は、その3年計画の二年目としての活動を継続しました。

主要活動の枠組みとして、

- 情報発信
- 情報交流～支援活動とハブ機能の強化～
- PMIリソースとグローバルネットワークの活用

を定め、2018年度においては日本フォーラム2018のアカデミック・トラック、アカデミック・スポンサー会議を軸にPM教育の共通教材、グローバルPBLを含む産学・国際連携、PMIグローバルリソースの紹介などを中心テーマとして成果を上げてきました。

▶ 情報発信

●支部ホームページ

支部ホームページに新たに設置したアカデミック関連活動のポータルページの内容拡充を図ってきました。アカデミック・ニュースレターを8件発信、“わが校のPM教育・実践教育”に3校の例を追加掲載しました。その中の山口大学工学部のケースでは同校で実施されているPMと実践教育体系を委員会メンバーが外部記者として訪問させていただいた視線も含めての紹介となっています。

●フォーラムにおけるアカデミック・トラックの設置

日本フォーラムは国内最大級のプロジェクトマネジメントのイベントですが、その中でアカデミック・トラックを設け、今回7回目の開催となりました。

2018年度は以下の構成で、高い評価を得ることができました。

- 次世代人材育成を目指した国際PBL2件の実践事例紹介
- PM教育裾野拡大のテーマに関する大学一般課程、高専の段階での2件の事例紹介
- キャリア開発で企業から大学に転進される方への

準備道程に関する大学からの助言と事例紹介

- IPS細胞の研究機関におけるテーマ選択からリサーチ・プロジェクトまでの研究体系



日本フォーラム アカデミック・トラックでの討論風景

▶ 情報交流 ～支援活動とハブ機能の強化～

●アカデミック・スポンサー登録の拡充

この分野のコアとなる教育機関としてアカデミック・スポンサー制度を推進してきましたが、2018年末時点で大学院、大学、高等専門学校に加えて新たに国立研究開発機関の参加を得て、41校、46部門と1研究機関の計47の登録を得ています。この中から支部研究会との共同プロジェクトという新たな芽も生まれました。

●アカデミック・スポンサー会議の開催

日本フォーラムの二日目にアカデミック・スポンサー会議が開催されました。アカデミック・スポンサー会議は、PM教育に取り組む教育関係者、民間実践者との意見交換・交流機会を作り、国内におけるPM教育の普及促進に寄与することを目的に年1～2回開催されています。このアカデミック・スポンサー会議では、約



神戸女子大学家政学部家政学科 准教授 貝増 匡俊

神戸女子大学家政学部家政学科生活プロデュースコースでは、地域の課題等に対して、課題設定から解決へ向けた取り組みをプロジェクト型学習（PBL）である演習の授業を通じて実践しています。この過程において解決策の立案から実施までを学生が主体的に行っていきます。この際、プロジェクトマネジメントを導入することでより効果の高いものを目指しています。日本フォーラムでのアカデミックトラックなどPMIJのアカデミックプログラムでは各校のPBLの実践を紹介といった教育実践だけでなく、様々なバックグラウンドのある先生方との議論を通じて、多くの学びがあります。この学びをフィードバックし、質の高いPBLを実践することで対話的で深い学びを促進させていこうと考えています。

COLUMN

30名の産学官の関係者が参加し、「産学および国際連携の方法」のワークショップ(WS)と「PM教育の基礎となる教育マテリアル」の2つのWSに別れて真剣・活発な討議が行われました。



アカデミック・スポンサー会議でのワークショップ風景

●E-Learningパッケージ「一歩シリーズ」の大学、総務省への提供

中央省庁のIT人材育成プログラムの教材として提供した「PM始めの一歩」(15分×4巻相当)と「PM次の一歩」(15分×6巻相当)の本格的な使用が始まり、1月から9月までに期間に597名の受講が完了し、86%の方々から高評価を得て、新たに愛媛大学での活用が始まりました。

また、懸案であった「始めの一歩」の計画段階をカバーする第一巻と第二巻を英訳し、国際PBL遂行の補助教材として2校に提供しました。海外からの大学院留学生に対するPM知識のレベル合わせのための自習教材としての利用形態にも期待しています。

●ハブ機能

複数大学によるグローバル・産学連携PBLを実施しました。日本支部が連携しているGTIコンソーシアムを

活用し、アカデミック・スポンサーの芝浦工業大学、愛媛大学他、国内外の大学21大学、77名が、産業界や自治体と連携し分野を超えた課題発見・解決に取り組みました。今年度は、海外から参加した37名を含めた71名に対し、システム工学とプロジェクトマネジメントのe-Learning英語版を事前学習に使用し評価しました。

▶PMIリソースとグローバルネットワークの活用

●PMI教育財団リエゾン活動

PMI教育財団は、小・中・高の教育機関や関連NPOにPMを普及する活動を行っている組織です。日本でも2017年後半から活動を始め、登録教材の一つである児童向け冒険小説「プロジェクト・キッズ・アドベンチャー(PKA)シリーズ」を翻訳・出版しました。2018年からこの書籍を活用したPM普及活動を展開しています。具体的には、3月に出版記念セミナー、6月に東京学芸大学でのワークショップ、7月に著者セミナー、8月に日本工学教育協会の年次大会での発表、9月に未来の先生展への出展、12月に慶応大学のPM授業での活用等が行われました。



PKA 著者のゲイリー・ネルソン氏とメンバー

●寄付

PMI教育財団の趣旨に賛同して日本支部として\$1,000の寄付を行いました。

行政プログラム

日本支部での行政組織への取組(行政プログラム)は「事務事業」、「施策」、「政策」をそれぞれ評価しながら、組織としての成果や今後の対応を進めています。これらはPMI®が推奨している「プロジェクト」、「プログラム」、「ポートフォリオ」として置き換えられると考えます。

日本支部では、行政スポンサー制度があり、現在、三重県桑名市、滋賀県大津市市民部に登録いただいています。昨今の働き方改革の一環で各行政機関においてもプロジェクトマネジメントを施策実行に活用して、円滑な業務遂行により生産性を高め行政サービスの充

実化を図る動きが活発化しています。

また、地域サービス委員会とも連携しながら職員の皆さまや地域の活動体へプロジェクトマネジメントに関する実践適用・普及を目指して働きかけを進めています。

特に北海道ではSIAF(Sapporo International Art Festival:札幌国際芸術祭)実行委員の皆さまとプロジェクトを成功させるための取り組みに対して知見を提供するなどより密着した活動を進めています。

首都圏中心の支部会員による活動

地域サービス委員会

当委員会は、首都圏以外の地域在住の会員の方々へのサービス向上、地域コミュニティ活性化を目標に活動しています。

2018年も引き続き、地域セミナーの企画および実行を担い、全国10ヶ所でセミナーを開催し、延べ350人以上の方々に参加申込みいただきました。



福岡でのセミナーの様子

2018年のセミナーは、2018年1月に日本語版がリリースされた「PMBOK®ガイド」第6版の概要の説明と、地域サービス委員会が日頃の活動から得られた地域コミュニティ活性化事例（プロジェクトマネジメント実践にあたっての気づき）の紹介でした。

当委員会メンバーが講師となりプロジェクトマネジメントの最新の動向や有益な情報を地域の皆様にご提供できました。今後も地域の皆さまの期待に応えて進めてまいります。

PMコミュニティ活性化委員会

支部会員のコミュニティを活性化する交流の場や情報を提供し、アクティブメンバーの増強と支部の価値向上に貢献することが目的です。2018年度は部会リーダーや新入会員のコミュニティ活性化を目標に活動しました。

4つのWG（①リーダーシップ推進、②部会連携、③情報発信、④ボランティア活動支援）を通じて、研究会・委員会等の部会（支部会員コミュニティ）の活性化を推進しています。2018年は、支部における重要な恒例イベントの一つである部会リーダー育成のためのリーダーシップ・ミーティング「LM2018」を9月に開催しました。また、「部会リーダー交流会」を4回開催し、相互の活動内容の理解、連携の促進につながっています。さらに「新入会員オリエンテーション」も4回開催し、新支部会員への情報提供と部会コミュニティへの参画を支援しました。



LM2018運営チーム

組織拡大委員会

日本支部の活動紹介および、価値訴求を通じた、支部会員数の増加とPMコミュニティの拡大を行います。2018年度は新たな活動の柱として日本支部の対外的な認知度向上を据え、新規施策の実現に取り組みました。

法人スポンサー向けには昨年と同様に法人スポンサー連絡会（年4回）、PM部門長セミナーの開催、会員企業によるスタディグループ（SG）の運営を事務局と連携して実施しました。

また、PMの潜在的ニーズ掘り起こしのための取り組みとして、対外的な情報発信や関連業界団体との連携強化・協業検討を新たに開始しました。



内閣府主催の勉強会の様子

具体的には内閣府科学技術・イノベーション担当主催「プロジェクトマネジメントにおける組織・人材に関する勉強会」へのオブザーバー参加および、部会研究成果の紹介、部会への対外活動サポートプログラムの検討のほか、内閣府地方創生推進事務局主催「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」への支部としての参加等を実施しました。

教育国際化委員会

PMに関する知識・素養が「今後社会に求められる人材」のジェネリック・スキルであることをアカデミアに対して働きかけ、実現させることを目的としています。

委員会は、全国に広がる大学・高専と産業界のメンバーによりテレビ会議で毎月開催しています。2018年は、2012年から継続している「日本フォーラムにおけるアカデミック・トラック」、2017年度から開始した日本支部ホームページにおけるアカデミック・プログラムの充実、ニュースレター発行など情報の蓄積・公開を行いました。また、2017年度に発足した「アカデミック会議」の第二回目を産学の連携で開催しました。さらに、小中高やNPOに対するPM教育の普及を目指したPMI教育財団（PMI EF = PMI Education Foundation）のリエゾンを行うための国際連携チームの活動を継続しました。



標準推進委員会

PMIの標準書、実務ガイド等を調査、選択、邦訳し、日本のPMコミュニティへ提供することを趣旨として活動しています。

「PMBOK®ガイド」第6版の品質向上に向けてPMI本部との折衝等を実施し、2018年末には日本側が提案した正誤表を反映した新版が発行されました。歯止めとしてのプロセス改善には時間がかかりますが、今後ともPMI本部との密な関係を築きながら折衝にあたります。さらに「PMBOK®ガイド」第6版にバンドル販売された「アジャイル実務ガイド」の品質向上に向けて活動を開始しています。

標準類の翻訳は、Construction Extension to the PMBOK® Guide, The PMI Guide to Business Analysis, Project Manager Competency Development Framework Third Edition, The Standard for Organizational Project Management について

全て2019年内の発行を予定しています。これらの活動は標準推進委員会が主催し、実際には関連部会の方々を中心としたボランティアによって成し遂げられています。

IT 研究会

IT業界におけるプロジェクトマネジメントに関するベスト・プラクティスを研究しメンバーの研鑽を図るとともに情報共有・交換を行う有志の集まりです。2018年度はITプロジェクト現場における Hints & Tipsを取りまとめ、IT系 若手プロジェクト・マネジャー向けガイドの作成を目標に活動しました。

ITプロジェクト現場における Hints & Tipsの作成は2016年度からの継続テーマです。2018年はPMBOK®第6版を活用し、日々のプロジェクト活動で生じる疑問相談・情報共有を座談会形式で実施し、Hints & Tipsのネタ収集を行いました。IT業界の中でも様々な経歴を持つメンバー同士で議論を深めることができ、メンバー自身の新たな気づきや成長につながりました。

なお、本テーマはITプロジェクト全般を広く扱うため、個々のメンバーが興味ある事例に取り組み易い点が特徴です。IT研究会では、今後も継続してコンテンツを蓄積し、プロジェクト・マネジャー向けガイドとして取りまとめていきます。

統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント(IPPM)研究会

2018年度から旧 EVM研究会を「統合プロジェクト・パフォーマンス・マネジメント研究会(IPPM)」に改称しました。EVMなどを中核手段として総合的なパフォーマンス・マネジメントを調査研究する活動を行っています。

研究目標は、「的確な科学的パフォーマンス情報を提供することにより、プロジェクト・マネジャーとチームの戦略策定と意思決定のマネジメント能力を高める統合的技法体系の確立を目指す」ことです。その趣旨に沿ってEVM、その派生手法アード・スケジュール(ES)および、ネットワーク・スケジューリングを中核手段としたパフォーマンス・マネジメント手法に関連する多数の海外論文を翻訳して定例会で議論しました。その成果の一部は日本フォーラムで『EVMとESに適用する統計的分析法と、その戦略的活用』と題して発表しました。

これらの海外論文の翻訳と解説資料は、関西ブランチ 定量的PM事例研究会メンバーにも紹介、共有しました。



日本フォーラムでの成果発表の様子

ポートフォリオ／プログラム研究会

PfMP資格取得セミナー(2017)に続きPgMP資格取得セミナー(2018)を開催する、2017年に改訂されたポートフォリオ／プログラム標準と事例を調査し講演する、ポートフォリオ／プログラムの実践事例をフォーラムで発表する、の3つを目標として活動しました。

2017年にポートフォリオ／プログラム標準が改訂され第4版が発行されました。当研究会では公開草案レビューの段階から積極的に参画した結果、多数のコメントが採用されました。改訂内容などについても調査し中部ブランチ特別セミナーで紹介しました。また、ポートフォリオ／プログラムの研究・実践の成果を日本フォーラムにて発表しました。これらは優秀発表に選出され代表メンバーがPMI北米大会へ参加しました。

PfMPに続きPgMP資格取得セミナーも2回開催し、ポートフォリオ／プログラム資格の啓蒙につなげています。

当研究会は50名という大所帯ですが、月例会議だけでなく、意欲のある人たちが分科会で活動したり、泊まり込みの合宿で深い討議をしたり、常に積極的に活動しています。



浜名湖 合宿集合写真

PMタレントコンピテンシー研究会

PMコンピテンシーおよび講師育成を図り、タレント・トライアングルのコンピテンシーを研究・発表し、プロジェクトマネジメントの定着とPM育成提言を行います。

創立20周年記念出版「タレント・トライアングル」のリーダーシップの章を当研究会で担当し、PMが持つべきコンピテンシーの将来を描き、全部会内で最大の執筆貢献を行いました。また PMCDF第3版の翻訳プロジェクトを当研究会メンバーで発定させ、鋭意翻訳しています。

日本フォーラムにおいては、PMコンピテンシーとは何か、またそのショートケースを用いた育成の実践成果の報告を行うとともに、PMCDF第3版の内容を先取りで研究・紹介しました。

今後も新しい時代も含めたPMのコンピテンシーとは何か、またその育成方法は、というテーマに取り組みます。



研究会での集合写真

組織的プロジェクトマネジメント研究会

OPM3®やOPM標準を中心に組織的プロジェクトマネジメント(OPM)の方法論やさまざまな組織論を研究し、日本の組織へのベストプラクティスの普及・展開を目指して活動しました。

2018年に、これまでのOPM標準扱いであったOPM3®を一新したOPM標準がPMIから発行されたことを受け、2019年の日本語版出版に向けて当研究会が中心となって翻訳プロジェクトを立ち上げました。また、日本フォーラムの基調講演でも組織のアジリティに関するメッセージも多数あり、「ティール組織」がベストセラーになるなど、かつてないほど「組織」に対する注目が集まりました。

組織は外側から見ると、内側から見るとは大きく景色が異なり、それぞれのバリエーションも多様で研究するのが難しい分野ですが、その分自由度も高く、部会内での定例会では活発な議論が交わされています。



定例会での集合写真

リスク・マネジメント研究会

研究活動を活性化しアクティブメンバーを増やすとともに、日本フォーラムでの講演などにより研究成果を積極的に外部に発信し他部会とのコラボレーションを推進することを目標に活動しました。

日本フォーラムでは「形骸化しないリスク・マネジメント」および「PMBOK®第6版でリスク・マネジメントはどう変わるのか」をテーマに2編の講演を行いました。

今年の新たな試みとして、企業訪問を行い、実際のプロジェクトの現場でのリスク・マネジメントの定着度や成果と課題などについてのインタビューを行いました。また、例年通り一般の方々向けのワークショップ型セミナーを実施するとともに、研究会メンバーでの合宿と遠足付き忘年会などで親睦を深めながら、次年の日本フォーラムに向け研究活動を活性化させました。



合宿における活発なディスカッション

PMO 研究会

PMOのあるべき姿や実践に関する研究・情報発信を行い、日本のPMOの発展に貢献することを目的としています。2018年も研究活動継続とともに、日本フォーラム発表とJapan Festaでのワークショップ成功を目標としました。

毎月の定例会とは別に、「PMO事例・実践研究」、「アジャイルPMO」、「製造業PMO」、「海外PMO」など、研究テーマ毎に毎月オフ会を開催し、研究活動を進めました。

また、7月の日本フォーラムでは、「日米PMOの違いとPMOの変遷について」と題して発表を実施、10月のJapan Festaでは、「変わらない組織に未来はない！～PMOの新潮流～」と題して、ケーススタディを通じて、近年のPMIのトピックであったBRM・アジリティ・チェンジマネジメント・タレントマネジメントについて参加者の方々とディスカッションしました。



2018年のワークショップ当日のPMO研究会メンバー

PMツール研究会

プロジェクトマネジメントのツールと技法を研究しています。2018年は「メンバーやステークホルダーの幸せがプロジェクト成功の秘訣」をコンセプトに新ナレッジマネジメントツールEMAをワイガヤで開発しました。

PMツール研究会は、メンバーの知見を持ち寄って、わいわい討議することが特徴です。いろいろな会社から、いろいろな立場の方が集まっていますので、一つのテーマを多角的に見ることができて、とても勉強になっています

2018年は、幸せをコンセプトとした管理ツールmanagement3.0を話し合っていく中で、日本のPMに適した方法を話し合った結果、感謝の振り返りツールEMA (Evolutional Mutual Appreciation) が生まれました。EMAを日本フォーラムで公開した後、内閣府でのファンディング・エージェンシーを担当する実務者へ講演するなど、多くの方と交流させていただきました。2019年は、私たちの活動を海外にも発信して、グローバルに交流していきたいと考えています。



会合での記念写真

女性コミュニティ WomenOBF

女性PMまたはPMを目指す女性が、自らの経験を元に、自分らしく活躍するための情報交換、研究を行うことを目的としたコミュニティです。2018年は、昨年まとめた「女性PMの活躍度UP」を女性PMに伝えることを中心に活動しました。

2012年に女性メンバーのみで活動を開始した部会です。現状、プロジェクト現場で活躍する女性は増えてきましたが、その働き方にはいろいろ



一般の女性PMへ研究成果を講演した際の様子

な課題があり、それは女性だけではなくプロジェクトに関わる全ての方に関わる内容です。それを踏まえ2018年から男性メンバーも参加しています。

私たちの研究の成果を女性PMへ直接伝えるため、2018年はイベントを2回開催し、多くの女性PMと交流できました。

- ・IBM社とのコラボレーションを企画し、社内ワークショップを開催、約30名が参加しました。
- ・NPO法人サービスgrant様と共催で一般女性PMとのワークショップを企画、開催。約40名が参加しました。

プロジェクトマネジメント研究会

「PMBOK®ガイド」を含む諸標準の研究、現場プロジェクトへの適用貢献を目的に、2018年度も組織を越え本音で議論する場を提供し、参加者のレベルアップを図ることを目標に活動しました。

2018年度も、①「PMBOK®ガイド」第6版研究、②特定テーマ深掘り、を主な対象としました。



第6版では、「組織」がキーワードです。PMも組織のシステムを理解し運営し、知識マネジメントも組織として考える必要がある、との観点で深掘りしました。そして、ガバナンスをテーマとして日本フォーラムで講演しました。

並行して、プロジェクトマネジメントに関して、現場の問題や悩みをぶつけ合いながら、気楽に議論するコミュニティ「PM-ZEN」を5回開催しました。缶ビール片手に、講師が出すテーマを元に、組織を越えて本音で議論するというものです（詳細は<https://pm-zen.connpass.com>）。

PM 教育研究会

教育分野におけるプロジェクトマネジメントの普及と啓発を目的とし、大学・大学院へのPM講義実施を主テーマに活動してきました。グローバル化対応のため英語PM講義にも取り組んでいます。

2018年度も、大学院/学部/短期大学に対する講義を計6校に対して実施するとともに、GACハンドブック翻訳チェックを行いました。

また、啓発活動として、工学教育の教員を対象にプロジェクトマネジメント教育についてのセミナーを実施し、高評価をいただきました。

さらに、ジュニア教育へのPM展開に向けた準備活動を継続中です。

ビジネスアナリシス研究会

ビジネスアナリシスに関する調査・研究を通じて、現場で活用できる具体的な手法を提供することで、ビジネスアナリシスの普及を行うものです。2018年度は、BA標準の読合せを主軸に活動しました。

日本フォーラムでは「The PMI Guide to Business Analysis 概略と実務ガイドにおけるスコープモデル技法」と題し、BA標準の概略やモデル研究成果を発表しました。また、定例会（月例）では、2018年1月に公開されたBA標準の読合せを、全ての章に対して実施しました。

標準・ガイドで分かりづらい部分を中心に調査・研究を続け、深掘りした内容を広く紹介出来るよう活動を進めています。特に、新しく登場したツール・技法に着目し、どう活用出来るか、適用例を考えながら、研究を深めています。



定例会（月例）の様子

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

社会課題の解決に有効なPM手法開発、事例研究、社会活動の実践と普及を通じ、社会の持続的な発展への貢献を目的とします。2018年はソーシャルPMの認知度向上、アクティブメンバー拡大を目標に活動しました。

今年度は、これまで開発してきたPM手法のブラッシュアップを行いつつ、昨今の社会的テーマであるSDGsやパラレルキャリア・セカンドキャリアの重要性も踏まえ、シニア活用の活性化、大学向けソーシャルPM講座開設準備、CSV研究等の新たなプロジェクト活動を行いました。

また、これらのテーマの普及を目指し、日本フォーラムでの講演、日本支部20周年記念出版での執筆、Japan Festaでのワークショップ開催や部会主催オリエンテーションを積極的に開催しました。

毎月の定例会とその後の任意の懇親会で活発なコミュニケーションを行いながら多くのプロジェクトを推進しています。



部会主催オリエンテーションの様子

アジャイル プロジェクト マネジメント研究会

PMIの立場でのアジャイルの普及と情報発信を目的とし、2018年度は特に新たに発刊された「アジャイル実務ガイド」やこれまで継続実施してきた「アジャイルPMの意識調査」についての情報発信を中心に活動しました。

2018年度の主な成果は以下となります。

第4回アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査の実施・分析・公開／日本フォーラムにて「アジャイル実務ガイド」と「アジャイルプロジェクトマネジメント意識調査」に関する2枠の講演／ACP勉強会 シーズン5（既卒含め合格者3名排出）／日本支部創立20周年記念出版「タレント・トライアングル」へ寄稿／法人スポンサー2社向けにアジャイルに関する講演を実施／中部ランチと連携したアジャイル実践相談室の開催／部会メンバー1名がPMI Global Conferenceに参加／Agile Japan 参加／JASPIC11月定例でアジャイル実務ガイドなどを外部発表／IPAや経済産業省・明治大学研究室等外部団体と連携



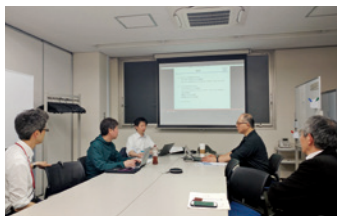
PMI-ACP勉強会 2018の様子

ステークホルダー研究会

プロジェクトの現場で活用できるステークホルダー・マネジメント手法を研究し、研究結果について広く情報提供することを目的に活動しています。2017年に引き続き2018年はステークホルダー・キューブを中心とした研究を行いました。

『ステークホルダー・キューブ』について、さらに具体的な手法/ツールの検討を実施しました。また、近年注目を浴びてきているアジャイルプロジェクトにおいて、『ステークホルダー・キューブ』をどのように活用できるのかについて検討を行い、日本フォーラムにてその検討成果を講演しました。

また、11月には『ステークホルダー・キューブ』の具体的なツールや、活用方法についてのワークショップを開催し、多くの方にご参加をいただき、好評を得ました。



定例会の様子

PM 翻訳出版研究会

PMIが発行する実務標準や定期刊行物の翻訳、出版を通じて、日本支部会員や国内PMコミュニティへ貢献することを活動目的としています。2018年度は特に『知識継承』をキーワードに活動しました。

初の試みとして、PMI標準書籍翻訳入門「お作法教室」と題してPMI標準書籍の翻訳に携わる人材の育成に向けて、翻訳スキル向上セミナーを4月、5月に2回開催し31名の方に受講いただきました。

また、Construction Extension to the PMBOK® Guideの日本語化をPMAJさまとのジョイントプロジェクトとして実施し2018年は監修直前までの翻訳作業を完了しました。2019年夏頃に出版予定です。

さらに、日本フォーラムでは、「知識継承を通してPMI標準本の内容を正しく伝える」のタイトルにて当部会で培った翻訳ノウハウを紹介しました。



定例会の様子

International Relationship Community, IRC 研究会

本研究会は、共通の関心を持つ在日外国人と日本人PM達の交流の場で、2018年度はアクティブメンバーの拡大と、月例会の活発化、海外支部との交流発展・関係強化を目標に活動しました。

2018年は月例ミーティングを9回実施しました。新規加入メンバー3名のほか見学者も増え、今後の活動への盛り上がりが見込まれます。計画していたインドネシア支部との交流については、2019年3月のSymex2019への参加および講演実施をターゲットに準備・調整を進めています。また2017年に続いて、2019年下期にはインド・ムンバイ支部との交流イベントを実現すべく企画を進めています。



ゲストスピーカー(右から3番目)を招いた際の月例会

PMBOK® セミナープログラム

PMIが発行している「PMBOK®ガイド」を学習する機会を会員に提供することを目的とし、PMBOK®第6版対応セミナーを開催するものです。2018年度は講師のスキルアップとセミナー向けテキストの改訂とセミナーを開催することを目標に活動しました。

本プログラムで作成したオリジナルテキスト(PMBOK®セミナー テキスト「PMBOK®ガイド」第6版対応)を使用し、11月にPMBOK®第6版対応セミナーを開催し、好評を得ました。

また、ベテランメンバーだけに頼らずに、講座全体レベルの維持向上を図るよう、個々のメンバーのレベルに合わせた入念なリハーサルを行い、各自のインストラクション能力の伸長を図りました。また、セミナーの講義内容を充実させるためQ&Aのレビューや最新動向を取り入れ、関連標準などに関する勉強会を行っています。

2019年度は、これらの成果を受けて東京と大阪でセミナーを開催予定です。

最新版のPMBOK®第6版を勉強したいという方やプロジェクトマネジメントを教えてみたいと考えている方は当部会への参加を検討してみてください。



PMBOK®第6版対応セミナーの様子

セミナー・プログラム

定期的なセミナー、イベントの開催を通じてPMの方々へのスキルアップと人脈形成の機会提供を目的に活動しています。2018年は他部会、ランチとのコラボレーションを積極的に推進し、活動の幅を広げることを目標としました。

タレント・トライアングルのうちリーダーシップ、ストラテジック&ビジネスマネジメントをテーマに、さまざまな分野において第一線で活躍されている方を講師として招請しました。

全8回の月例セミナーでは、延べ参加人数943名、平均87.8%の高い満足度を得ました。Japan Festaでは2日間10講演を全国向けに同時中継することに加え、新たな取り組みとしてPMO研究会、ソーシャルPM研究会、関西PM実践研究会と協業してワークショップ3セッションを並行開催しました。その結果、延べ参加人数757名、平均93.5%の高い満足度を得ました。

また、関西、中部ランチと協業して、満足度の高いセミナーを各地域で開催することに貢献しました。



「Japan Festa 2018」の様子

関西ブランチ所属支部会員による活動

関西ブランチ運営委員会

2018年は、関西セミナーの複数開催やあかねサロン、研究成果発表会など関西圏のPMI会員や一般向けセミナーを積極的に開催し、情報発信と交流を通じて関西ブランチ組織の発展を目指しました。

大阪駅北側の梅田グランフロント・ナレッジサロンを拠点に関西ブランチの研究会代表と運営委員がブランチ運営や企画を検討し、事務局機能を担っています。2018年は、東京での月例セミナーの人気講師による関西セミナーの複数開催やあかねサロンなど、サービス機会を増やし好評を得ました。

また、成果発表会では、副会長や理事、顧問等にも参加いただき、講評や参加者間の活発な議論が新たな気付きを与え合い、今後の研究内容に深みを生み出す価値創造の場になっています。2019年には、設立10周年記念イベントに向け運営委員会にて企画&検討中です。



2018年成果発表会の様子

関西ブランチ PM 実践研究会

実践研究によるプロジェクト成功率向上とプロジェクト・マネジャーの実践力向上を目的として活動しています。2018年度はショートケースメソッドを用いたPM実践教育手法の提案とその実践を目標に活動しました。

本研究会でこれまでに企画・実施した事例ワークショップの成果をまとめ、7月に「関西ブランチ教育プログラムの実践報告」のタイトルで、日本フォーラムで講演を行いました。



Japan Festa 2018にて

10月には「ショートケースで学ぶPM実践ワークショップ in YOKOHAMA」と題して、Japan Festaでワークショップを実施しました。参加者のアンケート結果から、実践力の向上と多くの気づきを与えられたことが確認できました。

さらに、11月に開催した関西ブランチ「あかねサロン」には奥澤会長を講師にお招きし、ショートケースメソッドの講演をしていただいた後、研究会メンバーによるミニワークショップを実施し多くの気づきを得ました。

関西ブランチ 医療プロジェクトマネジメント研究会

当研究会では、最先端のIT技術と医療技術の統合におけるプロジェクトマネジメントの形を追求することを目標に活動しています。

AIを医療に応用する上でのプロジェクトマネジメントの在り方を追求すべく、米国の先行事例から学ぶことを目的に洋書の翻訳を行いました。その成果は、日本フォーラムにて発表しました。

2018年度は、医療の特徴である規制・制度の影響を大き

く受けた1年でした。

情報通信基盤を活用した遠隔医療の社会実装におけるプロジェクトマネジメントの在り方の研究では、日本の保険制度の壁ために継続を断念せざるを得ない状況も経験しました。2018年4月に施行された臨床研究法への対応におけるプロジェクトマネジメントの在り方においては、解釈が難しい法規制に対応できる新たなモデルを試行し、12月1日に開催された関西ブランチ成果発表会で発表しました。



日本フォーラム 2018での講演を終えて

関西ブランチ IT上流工程研究会

プロジェクトマネジメント、ビジネスアナリシス、アーキテクチャデザインなど、超上流に関わる専門領域の研究を通じて、プロジェクトがビジネスに貢献するために提言をすることを目指して活動しています。

VUCAの時代を迎え、プロジェクトの成功にとって、ますますビジネスとITのパートナーシップを強化する能力が不可欠となってきました。こうした背景から、今年度は「ビジネス・リレーションシップ・マネジメント」というアプローチを研究し、日本フォーラムでは、それをプロジェクトに適用するために何をすべきか提言しました。

また、他の研究部会やPMI以外の他団体とも積極的に交流を深めました。

2019年度は関西ブランチ10周年にあたりますので、これまでの成果を総括して、次の10年に活きる提言をしたいと考えています。



日本フォーラム2018での様子

関西ブランチ 定量的プロジェクトマネジメント事例研究会

定量的データをプロジェクトマネジメントに活用するノウハウの収集とCCPM普及活動をしています。2018年は、参加メンバーのプロジェクトを題材に定量的PMを行う際の課題や成果を発表しました。

日本フォーラムでは「気付きと刺激を与えるEVMの新しい活用提案」をテーマに、関西ブランチ成果発表会では「ソフト開発以外へのCCPMの活用事例調査」をテーマに、発表しました。『真の学びは、議論を通じた意見の発信や気付きにある』をコンセプトに、各メンバーの関心テーマにおける情報共有と事例発表を目的とした事例共有会を定期開催(2018年は10回)しています。事例共有会は、他の研究会メンバーにも参加いただき多様な視点の意見やディスカッションを通じて、さまざまな価値観の交換や新たな気付きを得る学びの場となっています。



事例共有会の参加者

関西ランチ プロジェクトマネジメント創生研究会

「関西から世界に通用するプロジェクトマネジメントを創生する」をミッションとし、タレント・トライアングルを実践する手法の研究と、VUCA時代に適応するPMとは何かを明らかにすることを目標に活動しています。

毎月の定例会と秋合宿で、ビジネス・ストラテジーやリーダーシップ等をテーマに発表を行い、議論を重ねました。

イノベーション・プロセスと人財モデルを調査し、プロジェクトマネジメント軸で学んできた領域を拡大適用する試みを行うものです。

これらの成果は、関西ランチ成果発表会にて2テーマ

で発表しました。

また、日本フォーラムでは「59歳の私は、“PMBOK®”で転職しました！！！」と題した講演で参加者から高評価をいただきました。

2017年9月から始めた「PMBOK®ガイド」第6版の輪講は一通り完了しましたが、新たな視点を得て深掘りすること検討しています。



2018年神戸須磨合宿の様子

中部ランチ所属支部会員による活動

中部ランチ 運営委員会

中部ランチの運営を行っています。2018年度は中部ランチの広報活動、PMサロン/セミナー部会でのイベント企画とその運営支援、地域ソーシャルマネジメント研究会活動の継続的な支援を目標に活動しました。

運営委員会は Web によるリモート参加者を含めて月1回のペースで会議を開催しています。会議のテーマは前月の活動振り返り、当月の活動計画、TODO 事項の状況確認などPDCAサイクルで回し、活動を活性化させています。

会議終了後には懇親会も行っており、コミュニケーションの充実と、魅力あるコミュニティの形成を目指し活動を続けています。我々の活動内容は 日本支部のホームページの中部ランチ・ニュース、Facebook ページにて情報発信しています。



会議後の交流会の様子

中部ランチ PM サロン/セミナー

中部地域で活躍するプロジェクト・マネジャーやプロジェクトに携わる人に、自己研鑽や相互扶助を目的とした交流の場を提供しています。気軽に参加しやすい「PMサロン」と、PMIからの情報発信を主とした「セミナー」を主催しています。

中部ランチは発足以来、設立記念セミナーや2周年記

念セミナーなどの大規模セミナーや、プロジェクトマネジメントを中心とした技術や事例を情報発信するセミナーを開催してきました。

2018年度は、他地域で活躍されている講師を招きアジャイルマネジメント、ポートフォリオマネジメント、ステークホルダーマネジメントの事例など、プロジェクトの現場で活かせる実践的な事例情報を発信しました。また、全国を対象とした地域セミナーの中部開催の支援も行い、中部地域のプロジェクトマネジメントの普及とレベルアップに貢献しました。



中部地域でのセミナーの様子

中部ランチ 地域ソーシャルマネジメント研究会

地域の活性化や社会的な課題の解決に向けプロジェクトマネジメントがどのように貢献できるかを考え実践する研究会です。2018年度はソーシャル活動「実践」の足掛かりを掴むことを目標に活動しました。

今年度は、ソーシャル活動の手法を学びながら、中部地域で社会課題解決に幅広くかつ先進的に取り組んでいる豊田市主催の「SDGs」や「50年後のよた」などのシンポジウムやソーシャル活動にも参加し、プロジェクトマネジ



中部ランチ運営委員会 代表 井奈波 誠

私は、中部ランチの運営を担当しています。中部地域のこのコミュニティ活動も10年を経過しました。振り返るとさまざまなイベントを企画・運営してきたこと、多くの人との出会いがあったことが強く印象に残っています。失敗もあり、成功もあり、苦労もあり、喜びもありました。

中部ランチのブランドイメージが如何に築き上げられるのかは、我々の運営活動の手腕に掛かっているものと感じています。これからも持続可能なコミュニティ団体として成長していけるよう、運営活動の基盤を強化していきたいと思っています。

COLUMN

メントの理解活動や実践に向けての企画、その先行モデルケースとなるソーシャル活動体の選定など、「実践」の足掛かりを掴むことができました。

2019年度は先行モデル活動体へのミニマムなソーシャルマネジメント支援を実施するとともに、社会課題解決の

シンポジウムなどにも積極的に参加し知見を積むことで地域活性化に貢献していきます。



豊田市のソーシャル活動への参画

法人スポンサー社員による活動

人材育成 スタディ・グループ

プロジェクト・マネジャーに必要な人間力に着目し、実践で役立つ成果物の作成を目的に活動しています。2018年度は、『困ったときのお助けガイド(仮称)』の作成を目指して活動しました。

公開済みの「人間力強化書」は、若手プロジェクト・マネジャーが、さまざまな問題に直面し、悩みながらも成長していく、7つの物語で構成されています。読んだ方が共感を得て、後輩の指導または、自分自身の成長に役立てていただくという形でした。

新たな活動では、現場のプロジェクト・マネジャーが困っている、まさにその時、困難を打開するヒントになるような手引書、『困ったときのお助けガイド(仮称)』の公開を目指しています。

今年度の成果は、このガイドの作成方針が決まり、道筋をプロジェクトマネジメント計画書に表現したことです。



2018年度合宿

若手PM育成 スタディ・グループ

法人スポンサーへのアンケートで常に最重要課題の1つに位置付けられる、若手PM育成について問題意識の高いメンバーが集結しています。2018年は引き続き、各社の事例研究を元に「PM育成方法」を検討しました。

PM育成方法が未確立(教育講座の内容や過不足が未評価、講座以外に検討すべき事項が未整理)といった認識のもと、下記のステップで成果物「PM育成モデル/施策の事例」(仮)をまとめ中です。



法人スポンサー連絡会での活動報告の様子

①各社の取組(PM育成講座を中心に育成体系/資格認定/講座外の運営面/課題認識)を共有、②各社の事例として特徴が見える化、③他社からみた評価ポイント(見ならえそう)を整理しています。

好事例の発見や課題の共有(他社の気づきの共有による再発見)が大きな収穫でした。

当テーマにご関心のある企業のご参加をお待ちしています！

PMコミュニティ スタディ・グループ

「PMコミュニティがPMを変える ～惹かれるPMコミュニティのつくりかた～」を掲げ、法人スポンサーへのアンケート調査を通じてPMコミュニティの立ち上げ、運営方法の目的・狙いに紐付けた整理、提言を目標に活動しました。

2017年から行ってきたSG参加企業の事例研究と併せて、各社のPMコミュニティの目的・狙い、立ち上げ方、メニューを含めた運営ノウハウなど多くの知見をマインドマップを使って整理し、その結果を7月の日本フォーラム、12月の法人スポンサー連絡会で紹介しました。

残念ながら、目的・狙いと立ち上げ、運営方法との関連性を見出すことは出来ませんでした。これからPMコミュニティを立ち上げる企業、現在運営に停滞感を抱いている企業には十分に参考となるノウハウを整理できたと考えています。

2019年3月までに個別企業情報などを特定できない形に加工の上、成果物を公表し、本SGは活動を終了する予定としています。

ケースメソッド スタディ・グループ

PMの実践力を向上させる施策としてケースメソッド型教育に注目しています。2018年度は本手法を活用中の会社からワークフローおよびケース作成のノウハウを抽出しました。

ケースメソッド手法を活用した研修を実施するにあたり、そのワークフローを3つのステージ(1:研修の立ち上げ 2:事例の収集/ケースの作成 3:研修の実施)に分け、各ステージにおけるノウハウを得ました。たとえば、ステージ1では、本手法を活用した研修を実施するにあたり、最初のステージで、誰に何のスキルを向上/育成させたいのか、その目的・目標を明確にすることが重要であること、ステージ2では、“良いケース”とは“受講者に有益な気づきを複数与えることができるものであること”等が明確になりました。

各種セミナー

外部講師招請によるもの

月例セミナー

ボランティアメンバーであるセミナー・プログラムのメンバーが講師選定・折衝・当日運営の全てを務めるセミナーで、PMBOK®にとらわれない広い分野でのスキルアップと人脈形成の機会を提供しています。

2018年も、大企業内での旺盛な挑戦マインドの醸成事例、創業から挫折と成功を繰り返した社長の苦難、人材育成のプロフェッショナル集団が創出したRPA事業、部下を伸ばし自らも成長する働き方改革、リーダーのための情報セキュリティ・マネジメント、国際宇宙ステーション建設プロジェクト、教育改革プロジェクトに学ぶリーダーシップなど、多岐にわたるテーマで各界の専門家に登壇いただきました。

2018年 月例セミナー登壇者一覧

講演月	テーマ	講演者	所属
1月度	サントリーのDNA “やってみなはれ” ～なぜ生き残ったか～	富岡 伸一氏	サントリーマーケティング & コマース株式会社 品質保証推進部 技術顧問
2月度	創業してから15年間で学んだ大切なこと ～失敗しても修羅場を経験しても、事業を成功へ導くことが出来た大きな要因とは～	河本 扶美子氏	株式会社 ファーストブランド 代表取締役社長
3月度	人材育成のプロフェッショナル集団が挑むRPA事業創出 ～組織マネジメントの視点から注目の技術RPAで生産性向上を浸透させるまで～	永田 純一郎氏	株式会社FCEプロセス & テクノロジー 代表取締役社長
4月度	抵抗勢力との向き合い方 ～働き方改革、業務改革を阻む最大の壁を乗り越えろ～	榊巻 亮氏	ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ 株式会社 ディレクター
5月度	部下を伸ばし、自らも成長する働き方改革 ～私の痛い経験から～	飛田 甲次郎氏	ゴールドドラット・コンサルティング・ジャパン、パートナー
6月度	リーダー、管理職向けの情報セキュリティ・マネジメント	細井 泉氏	メルクリウス・コンサルティング株式会社 代表取締役CEO
9月度	宇宙ステーションにかけた夢 ～「きぼう」日本実験棟のプロジェクトマネジメント～	渡辺 英幸氏	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 有人宇宙技術部門 有人宇宙技術センター 主任研究開発員
12月度	心のスイッチが入ればチームは変わる ～改革に学ぶリーダーシップ～	漆 紫穂子氏	品川女子学院 理事長



計8回の聴講者は延べ940余名に上り、90%近くの方々から常に高い評価を得ています。また、8回のセミナー全てに参加いただいた方11名を12月度のセミナー冒頭で表彰させていただきました。この中には2年連続、3年連続の受賞者もおいででした。

オンライン・セミナー

プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指す多くの方々に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けないスキルアップ手段と機会を提供するもので、ご自宅PCやモバイル機器で受講いただくことを想定したプログラムです。



2018年4月度 月例セミナー、Festa2018 講師 榊巻 亮

2018年に月例セミナーで「抵抗勢力との向き合い方」、Festa2018で「会議が変わると働き方が変わる」をテーマにした講演をさせていただきました。コラムを借りて1つ提案させて下さい。

【PMIは良質な場。使い倒して人と繋がるべし】

色々な団体に出入りしていますが、日本支部に集まっている方達は、極めて優秀で前向きな方が多い印象を受けました。品質の高い団体は希少です。講習などで学びに来るだけでなく、せっかくですから、人とのつながりも大事にしてもらいたいです。

具体的には、講習後の懇親会に参加する、Facebookでつながる、などで十分です。できれば日本支部の運営や企画に参加するとなおGoodです。数回連続で懇親会に参加するだけでも、途端に顔見知りが増えるものです。ウィークタイズ(弱い紐帯)がものを言う時代ですから、ぜひ積極的に参加してみてください。

COLUMN

各種セミナー

内容は過去の月例セミナーを中心に Japan Festa 2018での講演など9つの録画を付加して計40超のコンテンツとなり、多くのPMの方々に有効にご利用いただいています。

アジャイルプロジェクトマネジメント研修



2018年もアジャイルプロジェクトマネジメント関連研修を13回開催しました。「アジャイルプロジェクトマネジメント基礎」では、アジャイルプロジェクト成功の鍵となる「アジャイルの基本的な考え方を正しく理解すること」に焦点を合わせています。「アジャイルプロジェクトスタートアップ入門」では、アジャイルプロジェクトにおけるビジョニングや見積りと計画について、ワークショップ中心で学んでいただきました。アジャイルは「PMBOK®ガイド」第6版でその要素が多く取り入れられており、プロジェクトマネジメントにおける必須のスキルとなっています。



デザイン思考セミナー

昨年に引き続き2018年も「デザイン思考基礎」を5回、「デザイン思考実践(2日間)」を2回開催し、いずれも高い評価を得ました。「基礎コース」は、まず顧客経験とは何か、ビジネスにおいてなぜ重要か、といった基本的考え方を紹介し、一部の技法はワークショップ形式で体験するものです。2日間の「実践コース」では、顧客経験の理解を通

じて誰も気づいていなかった核心をついた解釈(インサイト)を定義し、そのインサイトを基に、アイデアを出して統合する実践的な具体的手法をワークショップで体得していただきました。



ファシリテーション型リーダーシップ基礎セミナー

ファシリテーションは、自らがチームの問題解決に深く入り込むのではなく、チームメンバーの力を引き出し、チームが問題解決することを支援・促進する、近年注目されているリーダーの必須スキルです。

会議運営時のさまざまな困った状況(話の長い人、逆に話さない人、発散しすぎた議論、逆に発想が広がらない議論、コンフリクト(対立・葛藤)の発生や時間の管理)を適切にファシリテーターとしてさばけるようにワークショップを通して実践的に習得いただきました。

2018年は計4回開催しました。2019年も継続して開催します。



理事・部会メンバーが講師を務めるもの

PMBOK® セミナー第6版対応セミナー

「PMBOK®ガイド」第6版の発刊に伴い、PMBOK®セミナープログラムのメンバーが2018年上半期にセミナー用の副読本を作成し、10月に「PMBOK®第6版対応セミナー」を2日間コースで東京にて開催しました。

本セミナーは「PMBOK®ガイド」の全体像を理解しプロジェクトマネジメントのツールとして活用したいPMの方向けにカスタマイズしたもので、メンバーが作成した副読本を元に「PMBOK®ガイド」第6版日本語版を随時参照しながら、第1章から第13章の全てについてQ&Aを交えながら解説し、受講者から好評を得ました。



PMO セミナー&ワークショップ

2018年はJapan Festaにおいて、「変わらない組織に未来はない！～PMOの新潮流～」と題したワークショップを実施しました。第1部「セミナー」ではPMO研究会の最近の状況把握(海外動向含む)に基づき、PMO組織のありかたや、重要な機能が何かをご説明しました。

第2部ではよくある組織の課題を含めたケーススタディを通じて、近年のPMIのキーワードである「チェンジマネジメント」、「アジリティ」、「BRM(ベネフィットリアライゼーションマネジメント)」、「タレントマネジメント」について、PMOがどのように組織に貢献出来るかをディスカッションしました。



リスク・マネジメント研究会セミナー

リスク・マネジメント研究会では、2018年度も引き続き『転ばぬ先の杖、現場で使うためのリスク・マネジメント』をテーマに11月にセミナーを開催しました。

本セミナーは、PMBOK®を中心とした各リスク・マネジメント・プロセス(リスク・マネジメント計画、リスク特定、定性的リスク分析など)を解説後、それらをどう実践すれば良いかをワークショップ形式でグループ演習いただくものです。IT系のケースシナリオを例に仮想的にリスク・マネジメントを体験学習することができることから、参加者の方々には大変満足いただきました。

ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会 ワークショップ

Japan Festaにおいて『企業のソーシャル・スタートアップから学ぶ組織のアジリティ』と題してワークショップを開催しました。企業のソーシャル(社会貢献・価値向上)事業の立ち上げを題材に、前半ではリーンキャンバスとロジックモデルを使った新規領域の方策展開を行いました。

後半では当初目標達成が困難な状況に早く気づき、「組織のアジリティ」を発揮しながらチームでアイデアを出し



ポートフォリオ/プログラム研究会 近藤 浩

研究会では、プログラムやポートフォリオの概念を理解せずプロジェクトを語ることができない時代が来ると信じ、普及活動が続けています。PMP®がPMBOK®の普及に果たした役割と同様に、PgMP®やPfMP®もプログラムやポートフォリオの普及につながると考え「PgMP®資格取得セミナー」を企画しました。

この種のセミナーは合格者がその体験を語るのが一般的ですが、副題の「一緒に挑戦しよう」にありますように、受験体験をライブで共有し、共に考え成長することも狙いとしました。

結果的には合格できましたが、申請段階で差し戻され、コンピューター試験も不合格になり臨場感は十分。講師自身も心が折れ掛けましたが、研究会仲間の応援が何よりの心の支えでした。

COLUMN

各種セミナー



ワークショップの様子

合い、変化に対応するリーンキャンバスとロジックモデルの変更をアジャイルに行うプロセスを体感しました。

Japan Festaへの参加は初めてでしたが、社会課題への問題意識を持たれているさまざまなバックグラウンドを持つ方々に参加いただき、熱く質の高いディスカッションが行われました。

プロジェクト・ステークホルダー・マネジメントのツール活用法

2017年の高評価を受け、ステークホルダー研究会では2018年度も多次元グリッド「ステークホルダー・キューブ」を体験いただくワークショップを開催しました。今回は募集開始早々満席となり、支部会員の方々の「ステークホルダー・マネジメント」に関する興味が増していることが伺えました。

また、受講後アンケートでは、ステークホルダーに対する効果的な働きかけ方、特定／分析後の具体的なアクション（エンゲージメント）の深掘りなど実践的な活用方法に関するご意見もいただきました。

当研究会ではこれらのご意見を参考にし、会員の方々のご期待に沿えるよう研究を進めていきます。

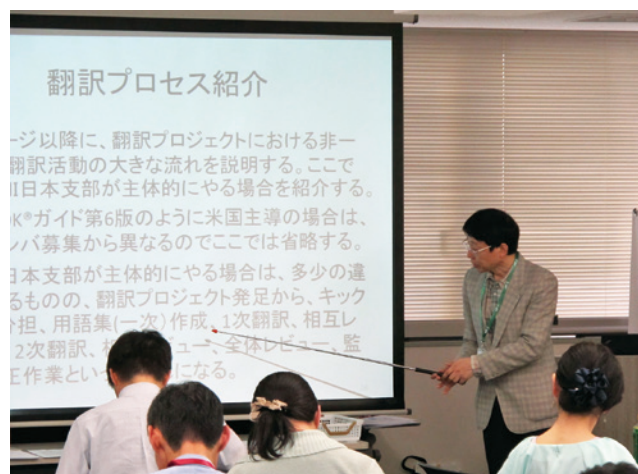


PMI標準書 翻訳入門「お作法教室」

近年、PMI本部から出版される標準書籍の種類が増えており、これらの翻訳に携わる人材の育成が求められています。

2018年は、初の試みとして、PMI標準書籍の翻訳スキル向上を図るためのセミナーを4月と5月の2回開催し、計31名の方に受講いただきました。

セミナーでは、PM翻訳出版研究会が長年培ってきた標準書籍の翻訳スキルを伝授しました。翻訳プロセスの説明や、「日本語表記ガイドライン」、「日本支部対訳用語集」等のツール紹介のほか、実際の標準書籍の対訳を題材にして受講者との活発な議論も行いました。その結果、「翻訳では英語力以上に日本語力が必要である」ことを実感していただきました。



PgMP資格取得セミナー

プログラムマネジメントの資格であるPgMP®は、グローバルでは2,500名、中国やインドでは200名を超え増加が著しいのに対して、日本は一桁で相変わらずのガラパゴス状態です。本セミナーではPgMP®試験の申込みから合格までの流れを大きく3つのステップに分けて説明しました。

1st Step「申請書レビュー」では、英文で提出した申請書の内容が、複数プロジェクトであるかなど形式的なチェッ



クが行われます。2nd Step「パネルレビュー」では、受験者のプログラム経験が専門家として相応しいかをPgMP®保有者がチェックします。3rd Step「複数選択試験:4時間170問」では、英語で読んで英語で考え英語で回答するスキルが要求されます。

同様のセミナーをまた企画しますので、皆さんの挑戦をお待ちしています。



PM実践ワークショップ

PM実践ワークショップは、プロジェクトの実践事例から作成されたケースを疑似体験し、ケースから抽出した問題点をグループで協議し解決策を作成することにより、プロジェクト・マネジャーの実践力向上を図る参加型のワークショップで、今回が通算10回目の開催となります。

関西ランチが発足した2010年よりPM実践研究会が実施しているもので、2018年は、Japan Festa(横浜開催)の2日目に行いました。毎回、参加者のからは高い満足度評価をいただいています。



ケースメソッド研修

ケースメソッド法によるPM教育はOJTに代わるものとして多くの企業で注目されていますが、講師育成、ケース作成、効果測定等にノウハウが必要となり、普及の妨げとなっています。これを踏まえ「ケースメソッド研修推進者育成プログラム」として、受講生8名に対して講師2名という少人数制指導の下、5月から8月にかけて、受講者体験・ケース作成・講師トレーニングの3コースの研修を実施しました。

また、9月には「若手PM実践力強化ワークショップ」として、若手PMに対し、実事例ケースを基にPMの考え方、着眼点、心構えをグループ学習で学んでいただきました。



「PMBOK®ガイド」第6版 紹介セミナー

「PMBOK®ガイド」第6版 日本語版が2018年1月に発行されたのを機に、PMI®標準の普及と会員サービスを目的として、その紹介セミナーを名古屋(5/9)、大阪(4/27、6/1)、東京(5/14、5/23、6/11)で計6回開催し、およそ400名の日本支部会員に参加いただきました。

第5版からの変更点を中心に、改定の裏話を交えながら解説・紹介したところ、参加者からは「『PMBOK®ガイド』第5版からの変更点がよくわかった」など高い評価をいただいたほか、貴重な改善提案もいただきましたので、今後のセミナー企画・運営に反映して行こうと考えています。



各種セミナー

地域セミナー

地域活性化委員会が主体となり、首都圏以外の地域在住の会員の方々へのサービス向上、地域コミュニティ活性化を目標に、2018年も引き続き全国10ヶ所でセミナーを開催し、延べ350人以上の方々に申込みいただきました。

2018年のセミナーは2018年1月に日本語版がリリースされた「PMBOK®ガイド」第6版の概要の説明と、地域サービス委員会が日頃の活動から得られたプロジェクトマネジメント実践にあたっての気づきをご紹介します地域コミュニティ活性化事例でした。今後も地域の皆さまのご期待にお応えし、地域サービス委員会メンバーが講師となり、プロジェクトマネジメントに関わる最新の動向や有益な情報を提供させていただきたいと考えています。



全国10ヶ所で行った地域セミナーの様子

各種情報の発信

ホームページは、日本支部の活動を支える重要な媒体で、2018年は約12万件/月のアクセスがありました。

各種セミナーの告知・エントリー処理、書籍販売・決済、PMI本部発刊記事の翻訳記事の紹介、ニュースレターの掲載、海外コンファレンス出張やセミナーの開催時の結果報告、日本支部会員・法人スポンサー組織向け専用ページなど、さまざまな情報発信に活用しています。

注目度・閲覧数が多いことから、バナー設置による企業広告や関係団体のイベント告知にも活用いただいています。

ターゲットを絞ってタイムリーな情報を提供するFacebookページと連携させ、会員をはじめとしたステークホルダーの方々に有効に活用いただいています。

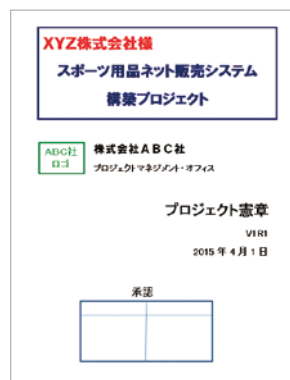


ダウンロード・ツール

日本支部の各部会が成果品として作成したテンプレートを会員の方々が実務で活用いただけるよう公開し、ホームページを通して無料ダウンロードいただいています。テンプレートは、使用された方々からの意見を基に逐次ブラッシュアップを行っています。2018年も、引き続き日本支部会員の方々に①～③を、法人スポンサー社員の方々に③をご提供しました。

① 「PMBOK®ガイド」対応 テンプレート集 (プロジェクトマネジメント 研究会)

2億円程度の中規模ITプロジェクトのマネジメントを想定したテンプレート(37種類のテンプレートと9種類のテンプレート・ガイド)



② リスク・マネジメント テンプレート (リスク・マネジメント研究会)

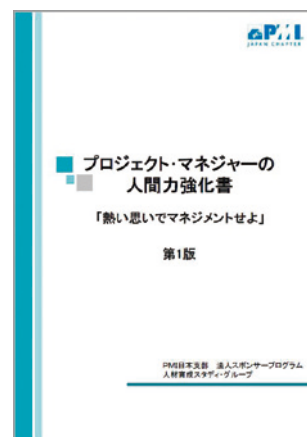
- ◆ リスクの発生確率影響度の定義
- ◆ リスク・マネジメント役割分担リスト
- ◆ リスク記述票
- ◆ リスク登録簿

◎:対応策実施中,○:監視中
※:課題発生,×:管理外
#:終了

リスク特定					定性的リスク分析				計画
No.	状況	リスク (要因・事象・影響)	リスク オーナー	特定日	発生 確率	影響度	リスク スコア	リスク 等級	
1	◎	W社の見積りによる計画のため、生産性が発揮できない可能性があり、全体計画に遅延影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2
2	◎	要求仕様書が文書表現のみであり、要求事項も不十分であるため、追加要求が収まらない可能性があり、コストオーバーの影響が発生する。	PM	3/1	3	4	12	H	3/2

③ PMCDF 関係 (法人スポンサー 人材育成スタディ・グループ)

- ◆ PMCDF 副読本 第1版
- ◆ PMCDF 副読本 第1版 付録「人格コンピテンシーチェックシート」
- ◆ プロジェクト・マネジャーの人間力強化書「熱い思いでマネジメントせよ」第1版 (PMCDF 実践研究会)
- ◆ PMのコンピテンシー改善に向けた調査報告書2016年版



ニュースレター

ニュースレターは、日本支部のイベント報告のほか、理事紹介、部会活動紹介、新規加入された法人スポンサー様の自社紹介、プロジェクトマネジメントの世界で顕著な活動をされている方からの投稿記事、その他ファクトデータ（PMI関連有資格者数、日本支部会員数、法人スポンサー企業名、理事名簿 他）などを、pdf雑誌形式で掲載しているもので、春夏秋冬の季刊となっています。

Japan Festaで講演いただいた方の具体的講演内容や人となり、30にも上る部会活動・法人スポンサー スタディー・グループの活動状況など、ホームページでは表しきれない内容を網羅しています。



メールマガジン

日本支部のメールマガジンは、約1万人のPMP® 資格保持者（日本支部からのメールマガジンの配信を承諾いただいた方）、約4,600人の日本支部会員の方々、110社にのぼる法人スポンサーの窓口ご担当の方に対して情報を配信するサービスです。

各種セミナーやイベントの開催、新刊書籍の割引販売、翻訳記事掲載などのさまざまな情報について、当該ホームページを参照いただくようご案内しています。

頻度は、基本的に1回/月、研修・セミナーなど個別の案内は2～3回/月のペースとなっています。

たとえば、「月例セミナーには当メールマガジンを受け取ったから参加した」という方が毎回半数おいでです。

日本支部会員、プロジェクト・マネジャー、法人スポンサーの方々にとって極めて重要な情報入手ツールとなっています。

2018/11/28 (水) 14:43

PMI日本支部メールマガジン事務局 <ml-magazine@pmi-japan.org>

【PMI日本支部メールマガジン】2018年11月度(Vol.117)

宛先 Pmi.japan@pmi-japan.org

日本太郎 様

こんにちは、PMI日本支部事務局です。

書籍販売は12月21日（金）までのご注文は年内に発送いたします。

年末年始期間中に読まれる書籍は早めにお買い求めください。

【今号のトピックス】

- ・PMI Japan Festa 2018の5講演をオンライン・セミナーとしてリリースしました。
- ・「PMI WHITE PAPER」と「PM Network」の邦訳を公開しました。
- ・PMI 香港コンgresに参加した除村理事の参加報告を掲載しました。

『プログラムマネジメント標準ー第4版 日本語版』

PMI 会員の方はPMIのウェブサイトからダウンロードできます。日本支部での発売は2019年の予定です。

<https://www.pmi.org/pmbok-guide-standards/foundational/program-management>

PMI日本支部 20周年記念出版『タレント・トライアングル』好評発売中！

詳細はこちら→ https://www.pmi-japan.org/news/info/2018_09_20_20kinen_shuppan.php

（受講無料）12/15(土)『2018年度 地域セミナー札幌市』＜最大2.75 PDU＞

Facebook

ソーシャルメディアによる情報発信源としてFacebookページを活用しています。

日本支部Webサイトに掲示された「お知らせ」など最新情報の展開だけでなく、PMI本部やPMI Educational Foundation から発信される情報もご紹介しています。

2018年も利用者の皆さんの「いいね!」でプロジェクトマネジメントに興味をもたれている、より多くの方に最新情報をお届けすることができました。



日本支部のオンライン・ブックストアでは、『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第6版 日本語版』をはじめとするPMI®標準の日本語訳や、PMP®受験やPMスキルの向上に役立つ書籍を販売しています。
URL: <https://www.pmi-japan.org/bookstore/>

プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第6版日本語版及びアジャイル実務ガイド



著者：PMI
発行：PMI
発行年：2017年

『プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)』は、PMIの最重要刊行物であり、業種に関わらず効果的なプロジェクトマネジメントを実施するための基本的なリソースです。定期的に改訂され、プロジェクトマネジメントにおける最新のグッド・プラクティスを反映しています。

『アジャイル実務ガイド』は、より良い結果を出すためのツールや状況判断ガイドラインを提供し、様々なアジャイル・アプローチに対する理解を促進します。特に、通常のプロジェクトマネジメント環境に慣れたプロジェクト・マネジャーがアジャイル・アプローチに適應する際に役立ちます。PMI日本支部は、『PMBOK®ガイド』を購入するお客様に、『アジャイル実務ガイド』を無料で提供しています。

プロジェクト・キッズ・アドベンチャー・シリーズ日本語版



著者：Gary M Nelson
監訳：PMI日本支部
発行：Gary M Nelson
発行年：2018年

『プロジェクト・キッズ・アドベンチャーシリーズ』は、プロジェクトキッズ達が様々な問題にぶつかりながら、柔軟な発想で困難を乗り越えていく様子を、ワクワクドキドキしながら読み進めるうちに、自然とプロジェクトマネジメントの考え方を理解できるようになっています。子供向けの図書とはいえ、現場で活躍されているプロジェクト・マネジャーの方にも多くの気づきが得られる内容となっています。

プログラムマネジメント標準第4版



著者：PMI
発行：PMI
発行年：2018年

『プログラムマネジメント標準第4版』は、自分のプログラムマネジメント慣行を成熟させようとしている方や組織のための、最も権威ある最新版ガイドです。プログラムマネジメント(関連プロジェクトのグループ化と調整の実務慣行)は、戦略目標を達成し成功を収めるのに必須のツールです。本書は、プログラムに関わるあらゆる人々に貴重なガイドを提供します。

決算報告

貸借対照表

平成30年12月31日現在
(単位: 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	130,150,138	【流動負債】	37,232,278
現 金 及 び 預 金	101,003,349	買 掛 金	6,158,276
売 掛 金	11,195,009	未 払 費 用	4,906,425
商 品	7,350,687	未 払 法 人 税 等	35,000
貯 蔵 品	1,621,469	未 払 消 費 税 等	3,164,700
前 払 費 用	1,382,566	前 受 金	21,239,836
未 収 入 金	7,597,058	預 り 金	1,512,041
【固定資産】	3,999,289	仮 受 金	216,000
【有形固定資産】	1,260,249	負 債 の 部 合 計	37,232,278
建 物 附 属 設 備	607,475	純 資 産 の 部	
工 具 器 具 備 品	652,774	【株主資本】	96,917,149
【無形固定資産】	37,600	資 本 金	55,000,000
電 話 加 入 権	37,600	利 益 剰 余 金	41,917,149
【投資その他の資産】	2,701,440	そ の 他 利 益 剰 余 金	41,917,149
敷 金	2,701,440	繰 越 利 益 剰 余 金	41,917,149
資 産 の 部 合 計	134,149,427	純 資 産 の 部 合 計	96,917,149
		負 債 及 び 純 資 産 合 計	134,149,427

損益計算書

自 平成30年 1月 1 日
至 平成30年12月31日
(単位: 円)

科 目	金 額	
【売上高】		
売 上 高	157,473,323	
会 費 収 入 高	24,923,474	
支 部 有 償 サ ー ビ ス	756,000	
売 上 高 合 計		183,152,797
【売上原価】		
期 首 商 品 棚 卸 高	6,849,880	
書 籍 関 連 原 価	41,882,534	
セ ミ ナ ー 関 連 原 価	40,239,407	
そ の 他 原 価	7,717,504	
合 計	96,689,325	
期 末 商 品 棚 卸 高	7,350,687	
売 上 原 価		89,338,638
売 上 総 利 益		93,814,159
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		87,658,546
営 業 利 益		6,155,613
【営業外収益】		
受 取 利 息	1,044	
雑 収 入	72,060	
営 業 外 収 益 合 計		73,104
【営業外費用】		
雑 損 失	30,050	
営 業 外 費 用 合 計		30,050
経 常 利 益		6,198,667
【特別損失】		
2 0 周 年 費 用	10,026,082	
寄 付 金	612,879	
特 別 損 失 合 計		10,638,961
税 引 前 当 期 純 損 失		4,400,294
法人税・住民税及び事業税		70,156
当 期 純 損 失		4,510,450

理事・監事名簿

2018年12月31日現在

名前	役職	所属
奥澤 薫	会長	KOLABO 代表
浦田 有佳里	副会長	TIS株式会社 戦略技術センター
片江 有利	副会長	株式会社システムコストマネジメント 顧問
端山 毅	副会長	株式会社 NTT データ 技術革新統括本部 企画戦略担当シニアスペシャリスト
麻生 重樹	組織拡大担当	日本電気 株式会社 金融システム開発本部 システム主幹
池田 修一	ミッション担当	株式会社ポジティブ・ラーニング 代表取締役社長
伊藤 衡	教育国際化担当	慶応大学大学院 システムデザインマネジメント研究科 非常勤講師
井上 雅裕	教育国際化担当	芝浦工業大学 副学長、システム理工学部教授
岩岡 泰夫	ミッション担当	株式会社国際開発センター 研究顧問、株式会社日進サイエンティア 執行役員(兼)経営企画室長(兼)ソリューション本部長
木南 浩司	地域サービス担当	株式会社マネジメントソリューションズ ビジネスディベロップメント マネジングダイレクター
斉藤 学	組織拡大担当	スカイライト コンサルティング株式会社 ソーシャルイノベーションラボ シニアマネージャー
鈴木 安而	標準推進担当	PM アソシエイツ株式会社 代表取締役
武上 弥尋	国際関係担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 SW & システム開発研究所 ワトソンサービス
中嶋 秀隆	標準推進担当	プラネット株式会社 代表取締役社長
福本 伸昭	PM コミュニティ活性化担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員
三嶋 良武	財政担当	株式会社 三菱総合研究所 社会 ICT 事業本部 シニア IT アーキテクト
水井 悦子	組織拡大担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 グローバル・ビジネス・サービス事業本部 シニア・プロジェクト・マネジャー
森田 公至	PM コミュニティ活性化担当	日本アイ・ビー・エム株式会社 GTS 事業本部 金融インダストリー&システムズ 担当部長
除村 健俊	教育国際化担当	芝浦工業大学 システム理工学部 電子情報システム学科 教授(学術)
渡辺 哲也	組織拡大担当	株式会社日立インフォメーションアカデミー L&D第一部 主管インストラクター
平石 謙治	監事	ビー・ティー・ジー・インタナショナル 代表
渡辺 善子	監事	株式会社 日本政策金融公庫 社外取締役
神庭 弘年	監事/PMI リージョン9メンター	神庭 PM 研究所 代表
木下 雅裕	顧問	ニッセイ情報テクノロジー株式会社 取締役常務執行役員
杉村 宗泰	顧問	日本マイクロソフト 株式会社 エンタープライズサービス部門 SQA/PMO マネージャ
高橋 正憲	顧問	PM プロ 有限会社 代表取締役



スポンサー一覧

法人スポンサー（109社）

（五十音順）

アイアンドエルソフトウェア株式会社
株式会社アジャイルウェア
アイシंक株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
アクシスインターナショナル株式会社
アドソル日進株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
株式会社インテック
株式会社インターゲテクノスフィア
株式会社HGST ジャパン
株式会社HS 情報システムズ
NCS&A 株式会社
NDI ソリューションズ株式会社
NEC ネクスソリューションズ株式会社
株式会社NSD
MS&AD システムズ株式会社
株式会社NTT データ
株式会社NTT データ アイ
株式会社NTT データ関西
SCSK 株式会社
株式会社エクサ
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
株式会社 エル・ティー・エス
株式会社大塚商会
株式会社オーシャン・コンサルティング
関電システムソリューションズ株式会社
キャノン株式会社
キャノン I Tソリューションズ株式会社
クオリカ株式会社
株式会社クレスコ
Kepner-Tregoe Japan, LLC.
株式会社建設技術研究所
株式会社神戸製鋼所
コベルコシステム株式会社
コンピューターサイエンス株式会社
JBCC 株式会社
JFE システムズ株式会社
株式会社 JSOL
株式会社ジェーエムエーシステムズ
株式会社シグマックス
株式会社システムインテグレータ
株式会社システム情報
システムスクエア株式会社
株式会社 シティアスコム
情報技術開発株式会社
新日鉄住金ソリューションズ株式会社
住友電工情報システム株式会社
セブンスカイズ株式会社
SOMPO システムズ株式会社
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社

TAC 株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社タリアセンコンサルティング
TDC ソフト株式会社
TIS 株式会社
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
東芝テック株式会社
東洋ビジネスエンジニアリング株式会社
株式会社東レシステムセンター
株式会社トヨタコミュニケーションシステム
株式会社TRADECREATE
日揮株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本クイント株式会社
日本システムウェア株式会社
日本自動化開発株式会社
日本証券テクノロジー株式会社
日本情報通信株式会社
日本電子計算株式会社
日本電気株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
日本ヒューレット・パカード株式会社
日本プロセス株式会社
日本ユニカ・システムズ株式会社
日本ユニシス株式会社
株式会社ネクストスケープ
株式会社ネットラーニング
株式会社野村総合研究所
ビジネステクノクラフツ株式会社
株式会社日立インフォメーションアカデミー
株式会社 日立産業制御ソリューションズ
株式会社日立社会情報サービス
株式会社 日立システムズ
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
日立物流ソフトウェア株式会社
富士ゼロックス株式会社
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
富士電機株式会社
ブラネット株式会社
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱総研DCS 株式会社
三菱電機株式会社
株式会社ラック
ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社リコー
リコージャパン株式会社
株式会社リクルートテクノロジーズ
株式会社ワコム

アカデミック・スポンサー（47組織）

（五十音順）

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校建築学科大塚研究室
愛媛大学 教育・学生支援機構学生支援センター丸山智子研究室
愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
大阪府立大学 21世紀科学研究機構産学協同高度人材育成センター
岡山大学 教育研究プロジェクト戦略本部戦略プログラム支援ユニット(URA)
香川大学大学院 地域マネジメント研究科 中村研究室
鹿児島大学産学官連携推進センター
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
神戸女子大学 家政学部家政学科
国立研究開発法人理化学研究所多細胞システム形成研究センター
サイバー大学
札幌学院大学
サレジオ工業高等専門学校 一般教育科 物理教育学研究室
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
千葉工業大学 社会システム科学部プロジェクトマネジメント学科
中央大学 文学部 社会情報学専攻
中京大学 経営学部 齊藤毅研究室
中京大学 情報センター
学校法人 中部大学 経営情報学部
筑波大学大学院システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 大学院 コンピュータサイエンス専攻
公立大学法人公立はこだて未来大学
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科
北陸先端科学技術大学院大学 知識マネジメント領域
北海道情報大学
北海道大学サステイナビリティ学教育研究センター
北海道大学 大学院情報科学研究科
独立行政法人国立高等専門学校機構舞鶴工業高等専門学校
明治大学 経営学部 鈴木研一研究室
山口大学工学部知能情報工学科
山口大学大学院技術経営研究科
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科

行政スポンサー（2組織）

滋賀県大津市 市民部
三重県桑名市

2018年12月31日現在

商標等について

「PMI」とPMIのロゴ、「PMP」、「PMBOK」、「PgMP」、「Project Management Journal」、「PM Network」、「PMI Today」および「OPM3」は、Project Management Institute Inc. (以下PMI Inc.) の登録商標です。



一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008

東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL:03-5847-7301

FAX:03-3664-9833

<https://www.pmi-japan.org/>

info@pmi-japan.org